

社会保育学科

<社会保育科目>

区分		科目名	頁
専門基礎分野	子どもの健康	感染微生物学	1
		公衆衛生学	2
		医療概論	3
		食生活論	4
	社会保育の理念	子どもの権利	5
		人権と法	6
		家族社会学	7
		社会福祉概論	8
		社会保育論	9
専門分野	社会保育	保育システム論	10
		保育経営論	11
		社会保育論演習	12
		保健医療福祉連携論	13
	保育の基礎理論	保育原理	14
		教育原理	15
		教職概論(幼稚園)	16
		子ども家庭福祉Ⅰ	17
		子ども家庭福祉Ⅱ	18
		子ども家庭支援論	19
		社会的養護Ⅰ	20
		保育者論	21
		幼児教育史	22
		教育法概論	23
		生涯学習論	24
	保育の対象理解	発達心理学	25
		子ども教育心理学	26
		子どもの保健	27
		子どもの食と栄養	28
		子ども家庭支援の社会・心理学	29
	保育の内容の方法	保育指導論	30
		保育内容総論	31
		保育内容・言葉	32
		保育内容・人間関係Ⅰ	33
		保育内容・人間関係Ⅱ	34
		保育内容・環境Ⅰ	35
		保育内容・環境Ⅱ	36
		保育内容・健康Ⅰ	37
		保育内容・健康Ⅱ	38
		保育内容・表現Ⅰ	39
		保育内容・表現Ⅱ(音楽)	40
		保育内容・表現Ⅱ(造形)	41
		保育内容・表現Ⅱ(言語)	42

<社会保育科目>

区分	科目名	頁	
専門分野	保育の内容の方法	乳児保育Ⅰ	43
		乳児保育Ⅱ	44
		就学児保育 A (思春期の支援)	45
		就学児保育 B (学童保育)	46
		病児・病後児保育	47
		子どもの健康と安全	48
		社会的養護Ⅱ	49
		子育て支援	50
		子ども理解と教育相談	51
		児童文化演習	52
		自然保育実践演習	53
	保育の教材研究	国語	54
		生活	55
		音楽Ⅰ	56
		音楽Ⅱ (ピアノ)	57
		音楽Ⅱ (ギター)	58
		図画工作Ⅰ	59
		図画工作Ⅱ	60
		体育	61
		児童文化	62
	障がい児の保育・教育	特別な教育的ニーズの理解とその支援	63
		障がい児福祉	64
		障害児支援の基礎理論	65
		知的障害者の心理・生理・病理	66
		肢体不自由者の心理・生理・病理	67
		病弱者の心理・生理・病理	68
		知的障害者教育課程論	69
		知的障害者教育方法論	70
		肢体不自由者教育課程論	71
		肢体不自由者教育方法論	72
		病弱者教育論	73
		視覚障害者教育総論	74
		聴覚障害者教育総論	75
		重複障害・発達障害の評価	76
重複障害・発達障害の教育	77		
障害児教育実習事前事後指導	78		
障害児教育実習	79		
保育の実践	保育指導論演習	80	
	家庭支援実践演習	81	
	地域との協働Ⅰ	82	
	地域との協働Ⅱ	83	
	地域との協働Ⅲ	84	

<社会保育科目>

区分		科目名	頁
専門分野	保育の実践	教育実習	85
		教育実習指導	86
		保育実習Ⅰ	87
		保育実習指導Ⅰ	88
		保育実習Ⅱ	89
		保育実習指導Ⅱ	90
		保育実習Ⅲ	91
		保育実習指導Ⅲ	92
	専門研究	卒業研究	93
		教職・保育実践演習	94

科 目 名	感染微生物学				
担当教員名	塚原 高広				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	ヒトに疾病を起こしうる微生物について、感染ということ、感染成立の3要素、感染予防としての手洗い・消毒・滅菌・スタンダードプレコーション、化学療法、薬剤耐性、Compromised host、院内感染、免疫・アレルギーを理解するほか、重要な各種の細菌・ウイルス・真菌・原虫・寄生虫の感染症の症状、予防、治療方法を習得する。				
授業の概要	指定するテキストに沿って解説する。また、必要な追加の説明を印刷物やプレゼンテーションで示す。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 微生物とは 2 感染と感染予防、検査法 3 化学療法 4 免疫 5 感染症予防のための公衆衛生 6 細菌学総論、グラム陽性菌感染症 7 抗酸菌感染症、グラム陰性球菌感染症 8 グラム陰性球桿菌感染症、スピロヘータ感染症、非定型細菌感染症 9 ウイルス学総論、ポックス・ヘルペス・アデノ・パピローマ・ポリオーマ・パルボ・オルソミクソウイルス感染症 10 パラミクソ・ラブド・フィロ・レオ・カリシ・ピコルナ・フラビ・トガ・ブニヤ・アレナウイルス感染症 11 コロナ・レトロウイルス感染症、ウイルス性肝炎、スローウイルス感染症、プリオン病、腫瘍ウイルス 12 STI 13 食中毒、経口感染症 14 真菌感染症、原虫感染症 15 寄生虫感染症 				
授業の留意点	講義は「ビジュアル微生物学」をテキストにし、追加資料、プレゼンテーションなどを組み合わせて実施する。講義の際に復習のための問題集を配布する。また、論述式の復習問題の提出を求める。定期試験は教科書付録の整理ノート、問題集、復習問題から出題する。				
学生に対する評価	定期試験 100点により評価する。演習問題から 35 問（各 1 点）、2005 年度（第 20 回）～2018 年度（第 33 回）管理栄養士国家試験問題、2003 年度（第 93 回）～2018 年度（第 108 回）看護師国家試験問題、2005 年度（社会福祉士：第 18 回、精神保健福祉士：第 9 回）～2018 年度（社会福祉士：第 31 回、精神保健福祉士：第 22 回）社会福祉士・精神保健福祉士国家試験共通問題のうちこの分野に関連する問題 35 問（各 1 点）をマークシート方式で回答を求める。復習問題から 4 問（各 5 点）を論述式で説明、用語の説明から感染微生物学で用いる専門用語の回答（10 問×1 点）を求め評価する。また、復習問題の提出状況も最終評価に反映させる場合がある。演習問題、各国家試験問題のうちこの分野に関連する問題、復習問題は e-learning (moodle) 上に掲載している。				
教科書（購入必須）	小田 紘 著「ビジュアル微生物学 第 2 版」（ヌーヴェル・ヒロカワ）				
参考書（購入任意）	西條政幸「微生物学 パワーアップ問題演習」医学芸術新社 森尾友宏 他「病気がみえる vol. 6 免疫・膠原病・感染症」メディック メディア				

科 目 名	公衆衛生学				
担 当 教 員 名	荻野 大助				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	公衆衛生学の基本的概念を学び、今日的課題についても、衛生行政および各種保健活動とも関連させながら理解を深める。				
授業の概要	公衆衛生学は、人を社会生活者と捉え、社会や環境との関連から人の健康障害の原因を明らかにし、健康を保持増進し、疾病・障害を予防し、すべての人がよりよく生きる社会の実現に寄与する学問である。授業では、まず、健康の概念、公衆衛生の目的について述べ、健康に関連する要因（宿主要因、環境要因、病因）と病気の発生、特に、どのような環境およびライフスタイル（栄養、運動、休養、喫煙、飲酒など）が生活習慣病を引き起こす危険性（リスク）を高めるのかについて説明する。さらに、健康指標としての各種の保健統計、健康増進施策、少子高齢化や国民医療費などの今日的課題について、衛生行政および各種保健活動とも関連させながら理解を深めてもらう。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 公衆衛生の歴史（日本と外国） 2 疫学の基本事項 3 健康水準・健康指標と衛生統計 4 感染症とその予防 5 食品衛生と衛生管理 6 生活環境（衣服と住居、水道、廃棄物） 7 医療制度（行政、資源、医療費） 8 地域保健（保健所と市町村保健センター） 9 母子保健（母子保健事業、少子化対策） 10 学校保健 11 生活習慣病 12 難病と精神保健 13 産業保健（労働衛生） 14 健康危機管理（災害と健康） 15 救急医療（心肺蘇生） 				
授業の留意点	他の授業科目とも関連する重要な事柄が、それぞれの単元の学習において頻出する。ただ単にキーワードを暗記するのではなく、きちんと内容を理解するよう努めることが大事である。 ※ 感染症（covid-19）の状況によって講義形式が対面から遠隔へ変更の場合有。				
学生に対する評価	課題（25点）と期末試験（75点）で成績評価を行う。 ※ 極端に点数（期末試験と課題取組状況）が低い場合は、再試験を行わず再履修となる。				
教科書（購入必須）	清水忠彦、佐藤拓代 編『わかりやすい公衆衛生学 第4版』ヌーヴェルヒロカワ 厚生統計協会編『厚生指標・国民衛生の動向』厚生労働統計協会（2021/2022年）				
参考書（購入任意）					

科 目 名	医学概論				
担 当 教 員 名	塚原 高広				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>福祉、保育、幼児教育の現場で専門職として役割を果たすために必要な医学的知識を習得しておく必要がある。本講義では、以下の目的で、医学的知識について解説する。</p> <p>①人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。 ②人の身体構造と心身機能について理解する。 ③健康・疾病の捉え方について理解する。 ④疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解する。 ⑤公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。</p>				
授業の概要	人のライフステージ、人体の構造・機能、疾病・障害および、公衆衛生施策について解説する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 人の成長・発達と老化、ライフステージ別の健康課題 2 健康及び疾病のとらえ方 3 身体構造と心身の機能（1）：細胞、体液、免疫 4 身体構造と心身の機能（2）：神経、感覚器、筋肉 5 身体構造と心身の機能（3）：循環器 6 身体構造と心身の機能（4）：消化器、呼吸器、体温 7 身体構造と心身の機能（5）：泌尿器、内分泌 8 疾病の概要（1）：生活習慣と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患、心疾患、高血圧 9 疾病の概要（2）：糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、血液疾患と膠原病 10 疾病の概要（3）：肝臓疾患、泌尿器系疾患、骨関節疾患、目・耳の疾患、感染症、神経疾患と難病、先天性疾患、その他の高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケア 11 障害の概要（1）：ICF、視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、高次機能障害 12 障害の概要（2）：DMS、発達障害、認知症、精神障害 13 リハビリテーションの概要と範囲 14 疾病・障害と予防・治療・リハビリテーション 15 公衆衛生の概要と保健医療対策 				
授業の留意点	教科書、講義資料を中心に授業を進める。				
学生に対する評価	定期試験により評価する。				
教科書（購入必須）	<p>社会福祉士養成講座編集委員会編集『医学概論』中央法規出版（予定） 厚生労働統計協会編『厚生指標・国民衛生の動向』厚生労働統計協会</p>				
参考書（購入任意）	<p>吉岡利忠、内田勝雄編『生体機能学テキスト 第2版』中央法規出版、2007年 田中明、宮坂京子、藤岡由夫編『臨床医学 疾病の成り立ち 改訂第2版』羊土社、2015年 清水忠彦、佐藤拓代編『わかりやすい公衆衛生学 第4版』ヌーヴェルヒロカワ、2015年</p>				

科 目 名	食生活論				
担 当 教 員 名	黒河 あおい				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保育士：選択
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、幼児・児童・生徒の生活環境に適した食教育実践および学習の効果を引き出すため、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得させる科目				
学 習 到 達 目 標	幼児・児童・生徒の生活環境に適した食教育実践および学習の効果を引き出すため、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得する。				
授 業 の 概 要	前半は既存資料をもとに食生活の変遷現状および 幼児・児童・生徒の栄養・食活状況を把握し、家庭の食事や学校給食変遷を確認する。後半は日本における食文化を概観し、地域家庭の食事や学校給食の変遷を確認する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 日本における食生活の変遷 2 日本における食生活の現状 3 全国調査にみる幼児児童生徒の栄養・食活状況 4 地域における幼児児童生徒の栄養・食活状況 5 家庭食の変遷 6 学校給食の変遷 7 日本の食文化・地域の食文化 8 幼児・児童生徒の食物アレルギー 9 「食事バランスガイド」について 10 地場産物と給食① 11 地場産物と給食② 12 演習①関心のある地域の地場産物を食べる 13 演習②給食における地場産物の活用を考える 14 演習③食に関する指導における地場産物の活用を考える 15 演習④地場産物についての発表、レポート提出 				
授 業 の 留 意 点	食および地域について広く関心をもって授業に臨んでほしい。				
学 生 に 対 す る 評 価	小テスト 20 点・発表レポート 20 点・毎回授業の振り返りレポート 60 点により総合的評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	適宜、資料等を配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	子どもの権利				
担 当 教 員 名	栢山 茂樹				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	学習到達目標を①子どもの権利とは何かを理解すること、②子どもの権利の歴史的展開を理解すること、③子どもの権利条約の制定過程と子どもの意見表明権の法的性格を理解すること、④学校における子どもの権利としていじめの事例を考察すること、⑤児童福祉の相談・救済のあり方を理解することとする。				
授 業 の 概 要	国際連盟は1920年に「子どもの権利宣言」(ジュネーブ宣言)において「子どもの最善の利益」を与えるべきことを宣言し、国際連合では1989年に「子どもの権利条約」が制定された。「子どもの権利条約」を基礎に子どもの虐待、障害児差別、在日外国人の子どもの差別、いじめと人権教育を通して子どもの人権を考察する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの権利の法的根拠 2 子どもの権利の歴史 3 子どもの権利条約の制定までの過程 4 子どもの権利条約について 5 子どもの意見表明権の法的性格 6 子どもの権利条約と国連人権教育 7 子どもの虐待 8 障害児差別と子どもの人権 9 在日外国人と子どもの人権 10 いじめと教育 11 児童福祉と相談・救済(1) 12 児童福祉と相談・救済(2) 13 児童福祉と相談・救済(3) 14 児童福祉と相談・救済(4) 15 児童福祉と相談・救済(5) 				
授 業 の 留 意 点	子どもの権利条約の意義と子ども観の転換をしっかりと把握し、個別的な分野における子どもの権利の問題点と課題を考察していくことに力点をおく。積極的に自己の見解を形成していく態度を望む。				
学 生 に 対 す る 評 価	授業参加態度(30点)、レポート試験(70点)で総合的に評価する。				
教 科 書 (購入必須)	参考図書として、[逐条解説]喜多明人編著「子どもの権利条約」(日本評論社)などからプリント配布をする。その他、適宜、必要な文献を紹介しつつ、プリント配布をする。				
参 考 書 (購入任意)					

科目名	人権と法				
担当教員名	栢山 茂樹				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	学習到達目標として、①人権を人間の尊厳性という根拠から導かれることの意義と考察を深めること、②「基本的人権の尊重」という法学的な定義に対する見解を考察すること、③人権は第一に人間の本質たる人格性にもとづく、前国家的・生来的権利であり、第二に自由権であることを基本とし、第三に個人権であり、自然人に帰属する権利であることを理解する、④自由権のみならず社会権も基本的人権とすることの根拠を理解する、⑤人権の分類と体系を理解すること、⑥人権の歴史的展開や国際社会における人権を理解することとする。				
授業の概要	①世界の人権の歴史的展開をたどり、日本における人権の軌跡を探っていく。②明治憲法下の人権の特徴と日本国憲法の基本的人権と分類を探る。③国際法における人権分野と国連の働きを考える。④生活の中の人権を考え、21世紀の人権のあり方を考える。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 人間の尊厳とは何か 2 基本的人権の尊重の根拠 3 人権の自然権としての位置づけ 4 世界の人権の歴史的展開（1） 5 世界の人権の歴史的展開（2） 6 日本の人権の歴史的展開 7 国際社会における人権 8 個人の権利とマイノリティー集団の権利 9 子どもの人権 10 子どもの権利条約の制定経過と特徴 11 女性の権利 12 具体的事例（1）公民権運動 13 具体的事例（2）生命倫理と人権 14 20世紀の人権とは何であったか・・・戦争と平和の問題を考える 15 21世紀の人権を考える 				
授業の留意点	人権の特性を法学的な視点から理解することを基礎としながら、世界および日本における歴史的展開を学び、具体的な事例における問題点を探っていく思考力を養うことに力点を置く。				
学生に対する評価	授業参加態度（10点）、リアクションペーパー（20点）、レポート試験（70点）で総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	必要な資料を配布して、参考文献を紹介していく。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	家族社会学				
担 当 教 員 名	小野寺 理佳				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	1. 現代家族の成立の歴史についての基本的知識を得る。 2. 家族とは何かを考え、自分の家族観を相対化することができる。 3. 将来の実践者として、家族の多様化をふまえて人々の生活を考えることができる。				
授業の概要	家族社会学は、直面する家族問題を深く理解し実践に活かすために参照される学問である。社会そして家族集団において人々は多様な立場におかれ、立場によって家族の見え方も家族に求めるものも異なる。本講義では、身近で具体的な事柄を取り上げながら、愛情、自由、選択、責任、血縁、法律、人権、福祉、倫理など様々な視角から家族事象を考えていく。				
授業の計画	1 家族ってなに？家族って誰？（1）あなたの家族は誰ですか 2 家族ってなに？家族って誰？（2）誰が家族を決めるのか 3 近代家族の誕生（1）近代家族の特徴 4 近代家族の誕生（2）近代家族を支える思想 5 近代家族の揺らぎ（1）家族の変容 6 近代家族の揺らぎ（2）家族を選択する時代 7 家族の現在（1）家族に何を求めるか 8 家族の現在（2）自由と選択 9 恋愛結婚と近代家族（1）恋愛の定義 10 恋愛結婚と近代家族（2）近代家族における恋愛の意味 11 生殖補助医療における親子関係（1）生殖補助医療とは何か 12 生殖補助医療における親子関係（2）父は誰か、母は誰か 13 生殖技術と市場（1）自由を制限するもの 14 生殖技術と市場（2）自由と自己責任 15 コ・ハウジング				
授業の留意点	・テキストの該当箇所、関連箇所を予習・復習として読むこと。 ・受講者の関心動向によって、内容構成や順序を調整する場合がある。 ・リアクションペーパーの提出を求めることがある。				
学生に対する評価	レポートにより評価する（100点）。				
教科書（購入必須）	神原文子・杉井潤子・竹田美和 編著 やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ 『よくわかる現代家族』[第2版] ミネルヴァ書房 2016年				
参考書（購入任意）					

科 目 名	社会福祉概論				
担 当 教 員 名					
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容	学校現場で社会福祉士（SSW）として従事した教員が、社会福祉的視点から保育とは何かを捉え、子どもを取り巻く社会問題と支援のあり方を理解させるために教授する科目				
学習到達目標	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。社会福祉と子ども福祉及び子どもの人権や家庭支援との関係性について理解する。社会福祉の制度や実施体系等について理解する。社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。社会福祉の動向と課題について理解する。				
授業の概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、制度や実施体系等について理解する。社会福祉と子ども福祉及び子どもの人権や家庭支援との関係性について学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODakション：社会福祉とは何か（保育と社会福祉） 2 平和・人権・福祉 3 私たちの暮らしの現実と社会福祉 4 社会福祉の基本理念 5 所得保障と社会福祉① 6 所得保障と社会福祉② 7 子ども家庭福祉① 8 子ども家庭福祉② 9 子ども家庭福祉③ 10 高齢者の生活問題と社会福祉 11 障害者の生活問題と社会福祉 12 社会福祉の法体系と機関・施設の役割 13 社会福祉の権利獲得の歩み 14 社会福祉労働者の専門性 15 社会福祉援助の意義と方法、まとめ 				
授業の留意点	社会福祉問題（生活問題、少子・高齢化問題、障害者問題等）に焦点をあて現状の認識を深め、今後の社会福祉の課題や展開について考える。				
学生に対する評価	議論参加状況 40 点、レポート 60 点				
教科書（購入必須）	授業の中で適宜紹介する。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	社会保育論				
担 当 教 員 名	長津詩織・猪熊弘子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：選択
実務経験及び授業内容	学校現場で社会福祉士（SSW）として従事した教員が、社会福祉的視点から保育とは何かを捉え、子どもを取り巻く社会問題と支援のあり方を理解させるために教授する科目				
学習到達目標	社会的な視点から子育てや保育をめぐる諸問題についての理解を深め、社会で子どもを育てることの意義を学ぶ。				
授業の概要	「保育の社会化」あるいは「社会的な保育」とはどのようなことかを学ぶ。子育て文化についての歴史的変遷や国際比較、現在の子育てを取り巻く環境の変化や、深刻化する子どもとその養育者の貧困問題など、社会科学的な視点から保育を論じる。また、先進事例を取り上げながら、子ども自身の育ちという視点からも、社会で保育を行うことについての積極的意義について学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：社会で子どもを育てるといこと 2 子育て文化の歴史的変遷 3 子育て環境の変化と子育ての社会化 4 多様化する保育ニーズと子どもの育ち①長時間保育 5 多様化する保育ニーズと子どもの育ち②多様な保育サービス 6 子どもの育ちを支える様々な専門職の連携 7 保育における学力保障問題—諸外国の事例検討 8 子どもの視点から考える子育て・保育の社会化 9 社会保育とは何か 10 少子化1：ジェンダー・母性論と保育 11 少子化2：労働問題と保育 12 子どもの貧困 13 子どもの貧困と保育 14 子育ての社会保障 15 まとめ：保育の社会的意味を考える 				
授業の留意点	日頃から、子育てや保育をめぐる動向や問題に目を向けることを心がけておいてほしい。授業は対面、状況によってオンデマンドやオンライン双方向で実施。				
学生に対する評価	講義時の小提出物 20 点、レポート 80 点により評価する。				
教科書（購入必須）	講義時に資料等を用意する。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	保育システム論				
担 当 教 員 名	長津詩織				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	学校現場で社会福祉士（SSW）として従事した教員が、社会福祉的視点から保育とは何かを捉え、子どもを取り巻く社会問題と支援のあり方を理解させるために教授する科目				
学 習 到 達 目 標	体験的・能動的な学びにより、現状の保育システム制度の歴史の変遷、現状、課題、将来的な方向等を論理的、客観的に明らかにすることができる。				
授 業 の 概 要	本講義では、保育をめぐる状況の変化から保育システム変動の時期を迎えている現在の状況を踏まえ、保育政策・制度などの視点から、保育システムの歴史の変遷と現代の動向および課題について学び、考察する。また、諸外国の制度・政策を視野に入れ、我が国の保育制度・政策についての検討も行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 幼い子どもと家族の現在 2 増える共働き世帯と待機児童問題 3 子どもの貧困と子育て困難 4 保育ニーズの変化と保育制度（1）保育制度の歴史の変遷 5 保育ニーズの変化と保育制度（2）新制度導入の背景 6 保育制度と保育者の働き方 7 前半のまとめ 8 保育システムとは 9 システム論と保育（1）市場主義的アプローチ 10 システム論と保育（2）社会サービスのアプローチ 11 子ども・子育て新制度の歴史の変遷 12 子ども・子育て新制度の現状 13 子ども・子育て新制度の課題 14 海外の保育システム 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	日頃から、子ども・子育て新制度をめぐる動向や問題に目を向けることを心がけておいてください。 授業は対面、状況によってはオンライン双方向（ZoomまたはWebex）で実施します。				
学 生 対 する 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・最終レポート：40点（講義の理解度、論述における論旨を評価する） ・小レポート：40点 ・授業での取り組み（グループワークなど）：20点 				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	講義時に資料等を用意する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	保育経営論				
担 当 教 員 名	長津 詩織				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>(1) 現在の保育施設に求められる役割や、関連する制度など、保育施設をめぐる構造的な背景を理解する。</p> <p>(2) 多様な生き方や価値観（世代・ジェンダー・障がいなど）に対する理解を深め、多様な個性をもつ保育者と子ども・保護者にとってよりよい施設運営をするために、必要な知識を獲得すること。</p>				
授業の概要	<p>保育の質は、保育者個々の責任に帰するものではなく、経営のあり方にも大きく左右される。この授業では、保育環境を保証する安定した経営、保育ニーズの分析、各園の保育の根幹となる保育方針・計画の策定、コンプライアンス、多様な個性を持つ保育者の活用、専門性の向上を保証する研修等、保育所や幼稚園の経営に必要な事項を扱う。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 保育事業の特徴 3 保育事業に関わる組織・団体 4 保育施設の管理運営①事業計画、地域ニーズと経営 5 保育施設の管理運営②保育方針・計画 6 保育施設の管理運営③人事労務管理・採用と人材育成 7 保育施設の管理運営④人事労務管理・就業管理と労働時間 8 保育施設の管理運営⑤人事労務管理・賃金制度と賃金管理 9 保育施設の管理運営⑥リスクマネジメント 10 保育施設の管理運営⑦リーダーシップ 11 保育施設の管理運営の実際①幼稚園、保育所、認定こども園 12 保育施設の管理運営の実際②地域型保育 13 保育施設の管理運営の実際③夜間保育 14 諸外国の保育施設の管理運営 15 まとめ 				
授業の留意点	<p>これまでの講義で学んだ保育施設の種類や保育制度について復習しておくこと。</p>				
学生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義への取り組み：20% ・ 講義内での提出物：80% 				
教科書 (購入必須)	<p>講義時に資料等を用意する。</p>				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	社会保育論演習				
担 当 教 員 名	宮内俊一・長津詩織				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	学校現場で社会福祉士（SSW）として従事した教員及び児童相談所及び児童養護施設等で臨床経験を持つ教員が、体験的・能動的学びから子育て環境について理解し、社会的な保育とは何かを考え、実践レベルで社会的な保育をソーシャルスキル・トレーニングであるセカンドステップを通してどう実現するのかを指導する科目				
学 習 到 達 目 標	体験的・能動的な学びにより、子育て環境の整備、保護者支援、保育に関する社会の責任等「社会的な保育」に関する課題を明らかにすることができる。				
授 業 の 概 要	「社会保育論」での学修を踏まえ、実践レベルで「社会的な保育」をどう実現していくのかを学ぶ。教員が指定する各種ボランティア等保育に関わる社会的な取組を体験するフィールドワークをもとに、「社会的な保育」という観点からの課題を明らかにし、その解決に向けた方策を検討する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 演習計画作成 3 ボランティア①実施 4 ボランティア②実施 5 ボランティア③まとめ 6 イベント①企画 7 イベント②実施 8 イベント③実施 9 イベント④まとめ 10 調査①（当事者インタビュー及びフィールド）①計画 11 調査②実施 12 調査③実施 13 調査④まとめ 14 演習全体の振り返り 15 報告会とまとめ 				
授 業 の 留 意 点	ボランティアやイベント、調査は教員が指定したものの中から選択することになり、具体的な回数は提示した授業計画から変更になる場合もある。 対面、場合によっては遠隔。				
学 生 対 する 評 価	提出物 40 点、講義における取組 60 点				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	特になし。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	保健医療福祉連携論			
担 当 教 員 名	保健福祉学部教員			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件
実務経験及び 授 業 内 容				
学 習 到 達 目 標	様々な現場実践に関する話題提供を踏まえ、グループワークで各専門職の業務や役割を共有するとともに、専門職連携の推進に向けての課題や取組の方向性を明らかにして、保健医療福祉連携に対する総合的な視野を広げることを目的とする。			
授 業 の 概 要	1 学年を数グループに分割したグループ別講義及び演習を行う。各専門職の役割を互いに理解し、そこから専門職連携の実践に向けての課題や取組の方向性についてグループワークを行う。検討したことを整理し、全体報告会で発表し、本学の連携教育科目の総まとめとして仕上げていく。COVID-19 感染拡大状況によっては一部または全部を遠隔授業とする可能性がある。また、遠隔授業の場合はグループ分けを行わずに学習する可能性がある。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、グループ分け 2 グループ別講義（1） 3 グループ別講義（2） 4 グループ別講義（3） 5 グループ別講義（4） 6 報告会の準備 7 全体報告会 8 全体報告会、講義のまとめ 			
授 業 の 留 意 点	グループ毎に開講日が異なるため、各自が出席すべき日時および教室等に留意すること。各学科の講義や実習の事情により、出席すべき日時に不都合が生じた場合は速やかに担当教員と連絡を取り、対処方法を検討すること。遠隔授業の場合は、双方向授業またはオンデマンド授業など、方法を組み合わせて実施する可能性がある。グループ分けをする場合は、グループにより活動日時が違うこともあるため、時間割表以外にメールでの連絡に留意すること。			
学 生 対 する 評 価	レポートにより評価する。(100点)			
教 科 書 (購入必須)				
参 考 書 (購入任意)				

科 目 名	保育原理				
担 当 教 員 名	及川智博・高島裕美				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針等を読解し、そのなかで示されている保育の基本について理解する。 ・ 保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度について理解する。 ・ 保育の思想とその歴史の変遷について理解する。 ・ 乳幼児の発達理解に関する理論とその歴史の変遷について理解する。 ・ 現在の保育と子ども、子育てにおける課題を把握し、その解決方法について考察する。 <p>なお、「授業計画」の各項目間にある理論的な整合性に気付き、保育という営みを構造的に理解してほしいと考える。</p>				
授業の概要	<p>現行の保育制度と法規を十分に理解したうえで、保育の意義・目的、保育思想、保育内容や方法についての基本的な知識を身に付ける。さらに、具体的な事例を用いて、現在の保育と子ども、さらに子育てにおける課題を把握し、その解決方法を考察する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：「保育」とは何か 2 保育者・保育施設に求められる役割と倫理①：子どもの最善の利益と保育 3 保育者・保育施設に求められる役割と倫理②：子ども家庭福祉と保育 4 現行の保育制度の基本的理解①：「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」について 5 現行の保育制度の基本的理解②：「子ども・子育て支援新制度」について 6 保育に関する法制度の歴史の変遷①：戦後～1980年代 7 保育に関する法制度の歴史の変遷②：1990年代～現在 8 保育思想の歴史①：保育観・子ども観の成り立ち 9 保育思想の歴史②：社会の変化と保育思想の転換 10 乳幼児の発達理解をめぐる歴史①：学習説としての「行動主義心理学」 11 乳幼児の発達理解をめぐる歴史②：生得説としての「児童心理学」 12 乳幼児の発達理解をめぐる歴史③：遺伝と環境の相互作用をとらえる「発達心理学」へ 13 現代の保育の課題とは何か①：保育施設と家庭・地域・学校・行政との連携・協働 14 現代の保育の課題とは何か②：子育て不安・ストレスと地域子育て支援事業の展開 15 保育における課題を解決するためには：グループワークによる意見交換 				
授業の留意点	<p>本講義は、学生に学問的態度を求める。学問とは知の探求である。学問における知識の内容は、研究の深化によって変化する。従って、重要なのは記憶することではなく理解する力である。理解は、「どこがどのようにわからないのか」を認識することによって深まる。そのような能動的受講態度が必要である。</p>				
学生に対する評価	筆記試験（90%）、授業への参加状況（提出物の内容、関心・意欲・態度）（10%）				
教科書（購入必須）	厚生労働省・内閣府『幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』チャイルド本社、2017年				
参考書（購入任意）					

科 目 名	教育原理				
担 当 教 員 名	高島 裕美				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の教育を、歴史的・思想的・制度的な視点から理解する。 ・学校教育の制度ならびに内容・方法について理解する。 ・教育における現代的課題を理解し、これからの教育を考える視点を醸成する。 				
授業の概要	<p>教育に関する基礎理論や思想を取り上げるとともに、学校教育の成り立ちや歴史の変遷、教育実践の内容・方法について学ぶ。また、現代の子ども・家庭や地域・学校教育が抱える問題について具体的な事例をもとに理解し、その解決に当たる教員に求められる資質・力量、役割についても考察する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーションー「教育」について学ぶ前にー 2 家庭における子育てと教育 3 子どもをどのように捉えるかー子ども観の歴史ー 4 教育の思想と歴史① 教育方法の歴史 5 教育の思想と歴史② 近代日本の教育思想と歴史 6 幼児教育の思想と歴史 7 学校の歴史と仕組み 8 教育課程・カリキュラムの変遷 9 子ども中心主義の思想と学校 10 授業と学習指導 11 教育の評価 12 学力とは何か 13 教師の成長 14 教育の現代的課題と学校 15 まとめー学校・教育の諸問題を解決するためにー 				
授業の留意点	<p>基本的には講義形式で進めるが、映像資料等を用い特定のテーマについて議論するなど、学習者それぞれが自分の考えや意見を述べる機会を多く取りたいと考えている。</p>				
学生に対する評価	<p>期末試験あるいはレポート（80%）、ディスカッションの内容・様子等授業への参加状況（20%）により評価する。</p>				
教科書（購入必須）	<p>特に指定しない。</p>				
参考書（購入任意）	<p>授業のなかで、適宜紹介する。</p>				

科 目 名	教職概論（幼稚園）				
担 当 教 員 名	棚橋裕子・高島裕美				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、幼児理解を基盤とし、幼稚園教諭としての専門性や役割について、保育実践に則した指導を行う科目				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員・保育者に求められる仕事と役割の歴史の変遷について理解する。 ・現代の教員・保育者に求められる資質・能力、期待される役割について理解したうえで、教員・保育者の専門性について自分なりに考察する。 ・学校・保育施設の役割の多様化を理解し、教職の意義や多職種との連携・協働の在り方について考察する。 				
授業の概要	<p>時代の移り変わりとともに、教員・保育者に期待される役割や、実際の職務内容・範囲は大きく変化してきた。一方で、教職には、いつの時代も変わらない（不易の）役割が存在する。この両面について、具体的な事例を用い学習する。</p> <p>また、学校・保育施設が担う役割や社会的要請の多様化について理解し、上記をふまえたうえで、教員・保育者の専門性、多職種との連携・協働の在り方について考察する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨN 2 教員・保育者への道：教員・保育者養成カリキュラム、教員免許・保育士資格の意義 3 現代の子どもの生活と学校・保育施設①：子どもの生活と幼稚園・保育施設 4 現代の子どもの生活と学校・保育施設②：幼児教育・保育と学校教育との接続 5 教員・保育者の仕事と役割①：教育・保育実践の内容と方法 6 教員・保育者の仕事と役割②：子どもの遊びから 7 教員・保育者の仕事と役割③：幼稚園教諭の仕事と役割の実際（1） 8 教員・保育者の仕事と役割④：幼稚園教諭の仕事と役割の実際（2） 9 教員・保育者にかかわる制度・法律①：教員・保育者の身分保障と服務義務 10 教員・保育者にかかわる制度・法律②：労働者としての教員・保育者 11 教員・保育者をめぐる諸問題①：教育・保育に求められる役割の変化、教職における「不易と流行」 12 教員・保育者をめぐる諸問題②：教職員集団の変化（多職種との連携・協働等）、子ども集団の変化 13 教員・保育者をめぐる諸問題③：教員・保育者をめぐる労働問題 14 教員・保育者の専門性とは①：グループワーク 15 教員・保育者の専門性とは②：まとめ 				
授業の留意点	出席は前提となる。やむを得ない事情を除き欠席はしないこと。				
学生に対する評価	授業への関心・意欲・態度（20点）、提出課題（80点）により評価する。				
教科書（購入必須）	特に指定しない。適宜プリント等を配布する。				
参考書（購入任意）	授業のなかで適宜紹介する。				

科 目 名	子ども家庭福祉 I				
担 当 教 員 名	宮内俊一・長津詩織				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容	児童相談所及び児童養護施設等で臨床経験を持つ教員が、子ども家庭福祉の現状と課題について指導する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 				
授業の概要	<p>「子ども家庭福祉」という考え方、理念、歴史の変遷、法律、制度や実施体系等の基本的な知識を理解し保育との関連性及び子どもの権利について学ぶ。また、子ども虐待等における事例研究・分析を通して実際の具体的な支援方法及び子ども家庭福祉の現状や動向を学び、今後の課題や展望についても考える。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子ども家庭福祉の理念と概念 2 子ども家庭福祉の歴史の変遷 3 子どもの人権擁護 4 子ども家庭福祉の制度と実施体系 5 母子保健と子どもの健全育成 6 多様な保育ニーズへの対応 7 子ども虐待・DV（ドメスティックバイオレンス）とその防止 8 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 9 障害のある子どもへの対応 10 少年非行等への対応 11 少子化と地域子育て支援 12 子育て世代の親たちの就労環境と子育て困難 13 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 14 子ども家庭福祉の施設と専門性 15 地域における連携・協働とネットワーク 				
授業の留意点	前半は基本的な理念や理論を踏まえることを重点に上げるため、教科書を用いて授業を進める。後半は子ども虐待等様々な問題を抱える家族を考え、具体的な実践事例を取り上げて、その意義を一緒に考える機会を作る。また、新聞記事などのプリントも配布して使用する。対面、場合によっては遠隔。				
学生に対する評価	提出物 70 点、講義における取組 30 点				
教科書（購入必須）	山縣文治編「よくわかる子ども家庭福祉」ミネルヴァ書房				
参考書（購入任意）	ミネルヴァ書房編集部編「社会福祉用語辞典」ミネルヴァ書房 山縣文治編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房				

科 目 名	子ども家庭福祉Ⅱ				
担 当 教 員 名					
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	学校現場で社会福祉士（SSW）として従事した教員による、多様で特別な支援を必要とする子どもや家庭を理解し、地域社会に根差した視点を養うため教授する科目				
学 習 到 達 目 標	多様で特別な支援を必要とする子どもや家庭を理解して、関わり方および課題を学ぶ。子どもの最善の利益の保障がどのように地域で取り組まれているかの実践を紹介し、子ども家庭福祉の視野を広げる。				
授 業 の 概 要	多様で特別な支援を必要とする子どもや家庭への理解及び関わり方を学ぶ。名寄市及びその周辺地域に根差した様々な実践からの学びを通して、子ども家庭福祉の視野を広げる。また、これからの地域における子どもや家庭をめぐる福祉や制度の現状やあり方についても学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子育てとは何か(1) (子どもはなぜかわいいのか) 2 子育てとは何か(2) (子育てはなぜ行き詰るのか) 3 家族とは何か 4 地域での実践から学ぶ(1) 命を育てる 5 地域での実践から学ぶ(2) 子どもは地域の宝 6 地域での実践から学ぶ(3) 共同で子育てを 7 地域での実践から学ぶ(4) 学童の子どもたち 8 地域での実践から学ぶ(5) 子どもによりよい文化を① 新制度の現状 9 地域での実践から学ぶ(6) 子どもによりよい文化を② 新制度の課題 10 地域で取り組む社会的養護 (児童養護施設・里親) 11 地域で取り組む社会的養護 (児童自立支援施設) 12 地域で取り組む社会的養護 (児童相談所) 13 地域で取り組む児童虐待(1) 14 地域で取り組む児童虐待(2)DVの観点から 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	積極的に授業内の議論に参加することを期待する。				
学 生 対 する 評 価	授業での意欲・態度 30 点、講義時のリアクションペーパー30 点、レポート 40 点により評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	講義時に資料を配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	子ども家庭支援論				
担 当 教 員 名	傳馬 淳一郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。				
授業の概要	子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解を深め、家庭支援の意義について理解する。様々な機関の家庭支援の取り組みを学び、連携・協力のあり方を考察する。また、保育者として家庭支援を行っていくために必要な基本的態度について、実際の保育場面等をイメージしながら学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子ども家庭支援の意義と必要性 2 子ども家庭支援の目的と機能 3 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 4 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 5 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 6 子どもの育ちの喜びの共有 7 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 8 保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等） 9 家庭の状況に応じた支援 10 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 11 子ども家庭支援の内容と対象 12 保育所等を利用する子どもの家庭への支援 13 地域の子育て家庭への支援 14 要保護児童等及びその家庭に対する支援 15 子育て支援に関する課題と展望 				
授業の留意点	子育て家庭の支援体制について理解し、ニーズに応じた多様な支援の展開、関係機関との連携等が可能な専門性を身に付ける。				
学生に対する評価	期末レポート（70点）、リアクションペーパー（30点）により評価する。				
教科書（購入必須）	井村圭壮・相澤譲治編著『保育と家庭支援論』学文舎、2015				
参考書（購入任意）	松原康雄・村田典子・南野奈津子編集 基本保育シリーズ第5巻『子ども家庭支援論』中央法規（2018年度中に出版予定） 西村重稀・青井夕貴編集 基本保育シリーズ第19巻『子育て支援』中央法規（2018年度中に出版予定）				

科 目 名	社会的養護 I				
担 当 教 員 名	宮内 俊一				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	児童相談所及び児童養護施設等で臨床経験を持つ教員が、社会的養護の意義、現状及び課題について指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。 				
授 業 の 概 要	社会的養護の歴史の変遷、現在の社会的養護の理念、基本的原理について学ぶ。次に、現在の児童相談所を中心とした児童養護の仕組みや制度、実施体系等について学びさらに、実際の家庭的養護、施設養護の人権擁護及び自立支援等について理解を深め、今後の社会的養護のあり方について考える。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会的養護の理念と概念 2 社会的養護の歴史の変遷 3 子どもの人権擁護と社会的養護 4 社会的養護の基本原則 5 社会的養護における保育士等の倫理と責務 6 社会的養護の制度と法体系 7 社会的養護の仕組みと実施体系 8 社会的養護とファミリーソーシャルワーク 9 社会的養護の対象 10 家庭養護と施設養護 11 社会的養護に関わる専門職 12 社会的養護に関する社会的状況 13 施設等の運営管理 14 被措置児童等の虐待防止 15 社会的養護と地域福祉 				
授 業 の 留 意 点	<p>基本的な概念や理論について、教科書を中心に授業を進める。必要に応じて、具体的な実践事例を取り上げて、その意義を一緒に考える機会を作る。また、新聞記事などのプリントも配布して使用する。</p> <p>対面、場合によっては遠隔。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	提出物 70 点、講義における取組 30 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	中山正雄 監修 浦田雅夫 編著「よりそい支える社会的養護 I 第 2 版」教育情報出版				
参 考 書 (購 入 任 意)	<p>ミネルヴァ書房編集部編「社会福祉用語辞典」ミネルヴァ書房</p> <p>山縣文治編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房</p>				

科 目 名	保育者論				
担 当 教 員 名	傳馬淳一郎・長津詩織				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容	保育士の経験を持つ教員が、子どもの育ちを支える保育者としての知識や方法について学び、保育における保育者の役割について指導する科目				
学習到達目標	(1) 保育者の役割と倫理について理解する (2) 保育士の制度的な位置づけを理解する (3) 保育士の専門性について考察し、理解する (4) 保育者の協働について理解する (5) 保育者の専門職的成長について理解する				
授業の概要	保育者の社会的役割や倫理、職務内容について理解を深めるとともに、保育士の制度的位置づけや専門性、保育者に求められる連携や協働について学ぶ。また、保育実践から専門職者としての成長について考え、自らの目指すべき保育者像を追求する。 現代社会における保育者の役割について、制度や他の専門機関、家庭との関わりなどを踏まえながら学修する。また、保育者として必要とされる知識・技術や保育者の専門職としての成長について、事例等を通じながら学ぶことによって、社会的役割を果たすための保育者像について考える。				
授業の計画	1 保育者の役割と倫理（担当 傳馬） 2 保育士の制度的位置づけ（担当 傳馬） 3 保育士の専門性 養護と教育（担当 傳馬） 4 保育士の専門性 保育士の資質・能力（担当 傳馬） 5 保育と保護者支援にかかわる協働（担当 傳馬） 6 保育者の協働 専門職観及び専門機関との連携（担当 傳馬） 7 保育者の協働 保護者及び地域社会との連携（担当 傳馬） 8 保育者の協働 家庭的保育者等との連携（担当 傳馬） 9 保育士の専門性 知識・技術及び判断（担当 長津） 10 保育士の専門性 保育の省察（担当 長津） 11 保育者の専門職的成長 専門性の発達（担当 長津） 12 保育者の専門職的成長 生涯発達とキャリア形成（担当 長津） 13 保育職場の諸課題：保育者集団とリーダーシップ（担当 長津） 14 保育職場の諸課題：保育者集団と労働条件（担当 長津） 15 まとめ より良い保育者を目指して（担当 傳馬）				
授業の留意点	講義形式ではありますが、演習や討議を含め主体的に参加することを求めます。				
学生に対する評価	期末レポート（70点）を主な評価の対象とするが、授業への出席・参加状況（15点）と小レポート（15点）により総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	講義時に資料を配布する。				
参考書（購入任意）	岸井・無藤・柴崎監修『保育者論—共生へのまなざし—』同文書院 中島常安・清水玲子編著『事例から見える 子どもの育ちと保育』同文書院				

科 目 名	幼児教育史				
担 当 教 員 名	塚本 智宏				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	幼稚園：選択
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>この授業では、主として西欧近代の幼児教育や子ども観の歴史・理念に目を向け、過去の遺産たる教育思想並びに教育史を取り上げ、その時代背景や文化、社会構造など考慮しながら、歴史的及び今日的な意義の視点にたつて授業を行う。ここでは、教育者の幼児教育実践の土台となる人間尊重の理念・幼児教育観・子ども観の獲得を一般目標とする。</p> <p>具体的には、教育史について 1)家庭と社会による教育 2)近代教育制度 3)現代社会における教育課題についての知識、理解を得ること、教育思想については、1) 家庭や子ども 2)学校や学習について 3)代表的な教育家についての知識、理解を獲得することを到達目標とする。</p>				
授業の概要	<p>主として、中世から現代に至るまでの西欧の幼児教育や子ども観の歴史を、メディア・経済・政治の大きな変動にと連動するマクロな歴史としてとらえるとともに、その歴史の中で、幼児教育の思想家・教育者がどういった教育観や子ども観をもって子どもという人間に向き合ってきたのか、その発展を解明することが基本的な授業展開となる。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 中世の社会構造と子ども観・教育観 2 近世文字メディアの誕生と教育観・子ども観の変化 3 近世末期の子どもの養育危機 4 近代社会への転換と子ども・教育観 5 イギリス産業革命と幼児教育・思想 6 フランス市民革命と教育思想 7 ドイツ近代的幼児教育思想と施設 8 近代学校批判と新教育観 9 イタリア新教育と幼児教育思想・施設 10 ロシア革命と保育の思想 11 子どもの発達権思想と人権思想(1) ロシア 12 子どもの発達権思想と人権思想(2) ポーランド 13 第一次世界大戦と幼児教育・子ども観 14 第二次世界大戦と幼児教育・子ども観 15 まとめ 				
授業の留意点	集中講義として実施する。欠席などの内容にすること。				
学生に対する評価	授業途中に課す小レポート（30点）及び授業終了時に課すレポート（70点）による。				
教科書（購入必須）	別途指示する。				
参考書（購入任意）	同『コルチャックとその時代 子ども権利史研究の試み』子どもの未来社、2019年予定				

科 目 名	教育法概論				
担 当 教 員 名	栢山 茂樹				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	教育法規としての学習と理解を確認しながら、教員を目指す人たちが「教職の意義や役割、職務内容」についての理解を深め、自らの教職への意欲や適性を確かめながら、専門職としての教員の力量を養うことを目的とします。事故や災害に関する安全教育や危機管理体制への対応を学ぶこととします。				
授業の概要	教育法の概要を基礎的に学び、戦後の教育諸課題について幼児教育・学校制度のあり方を具体的に考察します。現代の教育改革の課題や動向をさぐり、今、求められている教員の役割や職務内容について理解を深めるとともに、教員として必要な資質や能力を養う意欲や態度、方法の修得を目指します。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育法の歴史 2 現代法学と人権としての教育 3 戦後教育行政改革と展開 4 学校教育制度の構造と展開 5 現代教育の課題と教育法・・・教育内容をめぐる法的問題（1）国民の教育権説、国家の教育権説 6 現代教育の課題と教育法・・・教育内容をめぐる法的問題（2）家永教科書裁判、旭川学テ裁判 7 子どもの「生きる力」を育む教員の役割 8 教員の地位と身分保障（1）教職の意義、（2）国・公・私立学校教員の違い 9 教員の地位と身分保障（1）教員の待遇と服務条件、（2）教員の研修 10 幼稚園・保育所の生活（1）子どもの権利条約を生かした幼児教育・保育、（2）安全・安心な幼児教育・保育、（3）子どもの居場所、（4）安全・防犯への対応、（5）子ども・保護者への安全教育、（6）危機管理体制への整備 11 幼稚園・保育所の生活（1）人権保育・教育の実践、（2）地域・家庭と連携した子育て支援と取り組み事例、（3）保護者参加による地域交流、（4）事故・防犯における保護者、地域社会との連携・協力体制 12 現代教育改革の動向と教育法（1）・・・教育基本法の改正 13 現代教育改革の動向と教育法（2）・・・教育基本法と教育三法の改正 14 教師に求められる適格性と専門性 15 教師をめぐる現状と課題（1）変容する子ども・家庭・地域、（2）いじめ・不登校の対応（3）懲戒・体罰をめぐって、（4）子どもの虐待防止と地域の取り組み、（5）子どもの安心・安全と子どもの居場所づくり、（6）子育てを支援する相談・救済制度 				
授業の留意点	教育と法との関係を具体的に把握するようにつとめること。教職に対して熱意ある学生の受講を期待する。				
学生に対する評価	授業の積極的な参加態度（10点）、小レポート（20点）、レポート課題試験（70点）などを総合して評価します。				
教科書（購入必須）	特になし、ほぼ毎回、プリントを配布します。				
参考書（購入任意）	参考書を必要に応じて指示する。				

科 目 名	生涯学習論				
担 当 教 員 名	大坂 祐二				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	幼稚園：選択
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	日本の生涯学習・社会教育実践の蓄積に学び、人々の「学ぶ権利」の保障について、また、問題への気づきから解決に向かう過程とそれに対する支援について理解を深める。身近な生涯学習の機会に関心を持ち、その意義について考えることができる。				
授 業 の 概 要	生涯学習や社会教育は、単なる生きがいづくりやキャリア・アップの手段ではない。生活の困難に立ち向かい、主体的力量を形成する（＝エンパワーメント）学びであり、人々の学ぶ権利は「人間の生存にとって不可欠な手段」（ユネスコ「学習権宣言」）である。こうした視点から本講義では、保健・医療・福祉・保育との関連も念頭に、生涯学習・社会教育の本質と構造、実践について概説する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 生涯学習とは何か ―保健・医療・福祉・保育との関連にもふれて 2 成人にとっての「学び」 ―自主夜間中学を例に 3 生涯学習の国際的な動向と「学習権」の発展 4 家庭・学校・地域の連携と社会教育の役割 5 生涯学習・社会教育の法と行政 ―学びの自主性をめぐって 6 生涯学習・社会教育を支える施設と職員 7 自己教育活動と仲間づくり・集団づくり 8 北海道の地域づくりと生涯学習・社会教育 9 子育て仲間づくりにみる学習の組織化 10 誰が学習要求を組織するのか 11 学習過程とその支援（1）健康学習を例に 12 学習の構造化 ―青年・若者をめぐる社会教育実践① 13 自分さがしと居場所づくり ―青年・若者をめぐる社会教育実践② 14 学習過程とその支援（2）子育て支援と親の学び 15 若者自立支援と社会教育 ―青年・若者をめぐる社会教育実践③ 				
授 業 の 留 意 点	教育実習にともなう欠席状況等によって授業の順番を変更することがある。				
学 生 対 する 評 価	期末レポート（70点）のほか、小レポートやグループワークの参加状況等（計30点）で評価を行う。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	指定のテキストは使用しない。毎時、プリントを配布する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	小林文人・伊藤長和・李正連 編著『日本の社会教育・生涯学習』大学教育出版、2013年 鈴木敏正『[増補改訂版]生涯学習の教育学』北樹出版、2014年 社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版』エイデル研究所、2017年				

科 目 名	発達心理学				
担 当 教 員 名	及川智博・奥村香澄				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	1. 発達心理学の基礎理論について理解する。 2. 講義から得た発達理論の知識に基づいて、保育における子ども理解・発達理解の重要性および子どもの評価法を理解する。				
授業の概要	発達心理学の基礎理論について、特に保育実践との関連に触れながら講義を行う。講義を進めるにあたっては、科学が仮説の上に成り立っており、異なる理論上の立場や学説があることを理解すること、また知識として学ぶばかりでなく、学び方を学ぶことが重要であることに留意する。				
授業の計画	1 オリエンテーション／保育と心理学（1） 子どもの発達を理解することの意義 2 保育と心理学（2） 保育実践の評価と心理学 3 保育と心理学（3） 発達観、子ども観と保育観 4 子どもの発達理解～感情と社会性の発達～（1） 感情とは何か／基本的感情とその理解 5 子どもの発達理解～感情と社会性の発達～（2） 客観的自己意識の発達と自己意識の評価感情の発達／情操の発達 6 子どもの発達理解～運動機能の発達～ 7 子どもの発達理解～認知の発達～（1） 赤ちゃんのこころの発達 8 子どもの発達理解～認知の発達～（2） 思考の発達／心の理論 9 子どもの発達理解～言語の発達～ 10 人との相互的にかかわりと子どもの発達（1） 愛着の形成と発達 11 人との相互的にかかわりと子どもの発達（2） 発達と学習 12 生涯発達と発達援助 13 障がい児の発達 14 保育実践事例の分析 15 まとめ 子ども、社会、環境、発達、自立				
授業の留意点	本講義は学生に学問的態度を求める。学問とは知の探求である。学問における知識の内容は、研究の深化によって変化する。従って重要なのは記憶することではなく理解する力である。理解は「どこがどのようにわからないのか」を認識することによって深まる。そのような能動的受講態度が必要である。				
学生に対する評価	授業内レポート（10点）及び期末試験（90点）により評価する。				
教科書（購入必須）	心理科学研究会（編）『新・育ちあう乳幼児心理学：保育実践とともに未来へ』有斐閣				
参考書（購入任意）	授業内で資料を適宜配付する。				

科 目 名	子ども教育心理学				
担当教員名	糸田 尚史				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	幼稚園：選択
実務経験及び授業内容	児童相談所と児童家庭支援センターにおいて心理臨床の実務経験を有する教員が、子どもの「教育」という営為に有効とされる心理学的な知見について指導する科目				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの教育・保育にかかわる心理学の理論と実践を学ぶ。 ・子どもに関する教育心理学の理論と知識を修得する。 ・子どもに関する教育心理学の理論や知識を現場に応用できる力を身につける。 ・教師としての自覚と責任を持つ。 				
授業の概要	本講義は教育心理学の理論を子どもにかかわる援助において統合的に活かすことを目指して行われる。子どもの教育は単なる経験からだけでは行えず、机上の理論だけでも役には立たない。子どもの心身の発達や学びに関する心理学的理解をしっかりと身につけ、それを教育・保育の現場での実践に活かせるようにする。子どもの発達、学習、動機づけ、記憶、知能、パーソナリティ、神経発達症群（発達障害）のなどに関する理解と援助について、多様な映像を視聴したり、実際に体験してみたりすることにより、アクティブに学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 履修上の注意事項、成績評価の方法、教育心理学実験 2 子どもの学習心理学：子どもの学びへの理解 3 子どもの教育心理学：養護及び教育の一体的展開 4 子どものモチベーション心理学：人的環境としての保育者と主体的・対話的な深い学び 5 子どもの記憶心理学：子どもは生活や遊びから覚えていく 6 子どもの知能心理学：知力への理解と知的能力発達の過程 7 子どもの認知心理学：認知・学習の能力を理解・援助するための心理学的道具と資源 8 子どものパーソナリティ心理学：子どもの気質・性格への理解と援助 9 子どもの発達心理学：発達の課題に応じた援助と関わり 10 子どもの社会心理学：集団における他者との経験と社会性（社会情動）の育ち 11 子どものアフォーダンス心理学：保育における生活空間（環境）の理解と構成 12 子ども教育心理学における個人的ドキュメントの使用法：観察、記録、省察・評価、対話、情報共有 13 子どもの臨床心理学：子どもの心身の課題に対する理解と援助 14 子どもの発達障害心理学：特別な配慮を要する子どもへの理解と援助 15 発達の連続性と就学への支援：心理アセスメントと教育支援（就学相談） 				
授業の留意点	視覚にうったえる図や写真をなど多く盛り込んだカラー印刷による資料を配布する。既に配布済みのものを遡って使用することがあるため、配布資料は遺漏なく綴り、持参していただきたい。				
学生に対する評価	試験（60点）・提出物（20点）・受講態度（20点）の合計点で評価する。提出物（20点）は毎時の「気づき・学び」ペーパーの作成と提出である。				
教科書（購入必須）	『最新保育士養成講座』総括編纂委員会 編 2020 『最新保育士養成講座 第6巻 子どもの発達理解と援助』 全国社会福祉協議会出版部 陳省仁・古塚孝・中島常安 編 2003 『子育ての発達心理学』 同文書院				
参考書（購入任意）	鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 編 2020 『心理学：第5版補訂版』 東京大学出版会 高嶋景子・砂上史子 編 2019 『新しい保育講座③ 子ども理解と援助』 ミネルヴァ書房 清水益治・森俊之 編集 2019 『子どもの理解と援助』 中央法規 子安増生・名和政子ほか 著 2018 『発達と学習（教職教養講座）』 共同出版 下山晴彦・遠藤利彦・齋木潤 編 2014 『誠信 心理学辞典（新版）』 誠信書房 ナイジェル・C.ベンソン 著（清水佳苗・大前泰彦 訳） 2001 『マンガ 心理学入門：現代心理学の全体』				

科 目 名	子どもの保健				
担 当 教 員 名	永谷智恵・佐々木俊子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解することができる。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解することができる。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解することができる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解することができる。 5. 子どものこころとからだ、「虐待」から現代的問題を理解することができる。 				
授業の概要	<p>子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義と現在の健康問題について、ディスカッションを通して理解・考察していく。子どもの身体発育や生理・運動機能については、成長発達の変化から捉えられるように、また子どもの健康問題とその対応、疾病については、子どもに特異的なものを中心として写真・イラストなどを用いて解説する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的、健康の概念と健康指標 2 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題、地域の保健活動と子ども虐待の防止 3 子どもの身体的発育・発達と保健（1）身体発育及び運動機能の発達と保健 4 子どもの身体的発育・発達と保健（2）生理機能の発達と保健 5 子どもの身体的発育・発達と保健（3）生理機能の発達と保健 6 子どもの身体的発育・発達と保健（4）生理機能の発達と保健 7 子どもの心身の健康状態とその把握（1） 8 子どもの心身の健康状態とその把握（2） 9 子どもの心身の健康状態とその把握（3） 10 子どもの疾病の予防とその対応（1） 11 子どもの疾病の予防とその対応（2） 12 子どもの疾病の予防とその対応（3） 13 子どもの疾病の予防（4） 14 子どもの疾病の予防（5） 15 子どものこころとからだ 虐待と脳への影響 				
授業の留意点	<p>子どもの健康や安全を守り、心身ともに健やかに育てること、また子どもに自分の健康や安全を守る力を獲得させ、その力を育むための指針を示すものである。積極的な授業参加を期待したい。</p>				
学生に対する評価	定期試験 100点				
教科書（購入必須）	子どもの保健 遠藤郁夫/三宅捷太 編集 学建書院				
参考書（購入任意）					

科 目 名	子どもの食と栄養				
担 当 教 員 名	泉 史郎 長嶋 泰生 下坂 彩				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、その内容について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 				
授業の概要	教科書や関連するガイドライン、教員作成の資料等を用いて基本的知識を学んだ後、演習に取り組むことで理解を深めていく。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの健康と食生活の意義 (1) 子どもの心身の健康と食生活 (講義) 2 子どもの健康と食生活の意義 (2) 子どもの食生活の現状と課題 (講義・演習) 3 栄養に関する基礎知識 (1) 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 (講義・演習) 4 栄養に関する基礎知識 (2) 食事摂取基準と献立作成・調理の基本 (講義・演習) 5 子どもの発育・発達と食生活 (1) 乳児期の食生活① 乳児期の食機能の発達と成長 (講義・演習) 6 子どもの発育・発達と食生活 (2) 乳児期の食生活② 乳汁栄養、離乳の意義と食生活 (講義・演習) 7 子どもの発育・発達と食生活 (3) 幼児期の食生活① 幼児期の食機能の発達と成長 (講義・演習) 8 子どもの発育・発達と食生活 (4) 幼児期の食生活② 幼児期の栄養・食生活の実態と保育者としての対応 (講義・演習) 9 子どもの発育・発達と食生活 (5) 学童・思春期の食生活、生涯発達と食生活 (講義) 10 食育の基本と内容 (1) 保育における食育の意義・目的と基本的な考え方、食育の内容、計画及び評価、食育のための環境づくり、地域の関係機関や職員間の連携 (講義) 11 食育の基本と内容 (2) 児童福祉施設や家庭、地域での食育の実践 (演習) 12 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 (講義・演習) 13 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (1) 疾病および体調不良の子ども、障がいのある子ども、食物アレルギーのある子どもへの対応 (講義) 14 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (2) 食物アレルギーのある子どもへの対応の実際 (演習) 15 世界の子どもの食生活、科目のまとめ (講義) 				
授業の留意点	教科書の該当箇所を事前に予習してくること。				
学生に対する評価	定期試験 (50点)、小テスト (15点)、課題・提出物 (35点) により総合的に評価する。				
教科書 (購入必須)	上田玲子編著『子どもの食生活 ー栄養・食育・保育ー 第3版』ななみ書房 (2018)				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	子ども家庭支援の社会・心理学				
担 当 教 員 名	糸田尚史				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容	児童相談所と児童家庭支援センターにおいて家族療法など心理臨床の実務経験を有する教員が、子ども家庭の生涯発達・社会的状況・精神保健に関して心理学的な見地からの理解を促し、支援の方法などについて指導する科目				
学習到達目標	<p>(1)生涯に互る発達に関する心理学的な知見、各期における発達課題、乳・幼児期の重要性等について理解し、保育することができる。</p> <p>(2)家庭・家族の意義や構造-機能、親子関係や家族関係等を発達論的・システム論的に理解し、子どもと家庭を社会的・文化的・歴史的に捉え、支援することができる。</p> <p>(3)現代の家庭生活に関わる問題の現状を知り、それらの問題と経済的・社会的背景とを関連づけて理解することができる。</p> <p>(4)子どものメンタル・ヘルスと精神保健福祉的な課題について理解・考察し、適切に家族心理学的援助やリファーマ（ラル）することができる。</p>				
授業の概要	乳児期・幼児期・学童期・青年期・成人期・老年期などの各段階における子どもと養育者の発達課題や精神保健（心の健康）について学修する。また、家族の中で生まれ育ち、就労し、子どもを生き育てるとい生活の営みが「今日なぜ大変と感じられるのか」についても幅広い視点から考える。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：履修上の注意事項、成績評価の方法、イントロダクション 2 生涯発達①：乳児期における社会・心理学的発達 3 生涯発達②：幼児期における社会・心理学的発達 4 生涯発達③：学童期における社会・心理学的発達 5 生涯発達④：思春期・青年期における社会・心理学的発達 6 生涯発達⑤：成人期・老年期における社会・心理学的発達 7 家族の社会・文化・歴史的理解①：ホームやファミリーの意義及び構造-機能 8 家族の社会・文化・歴史的理解②：親子関係・家族関係 9 家族の社会・文化・歴史的理解③：養育経験と母性・父性・親性の発達 10 子育てを取り巻く社会的状況 11 ライフコースと仕事・子育て 12 多様な家族とその支援：特別な配慮を要する子ども家庭の理解と支援 13 発達支援が必要な子ども家庭の理解と援助 14 子どもの心の健康と精神保健福祉的課題①：子どもの生活・育成環境とその影響 15 子どもの心の健康と精神保健福祉的課題②：子どもの心の健康にかかわる諸問題と家族療法 				
授業の留意点	現代社会における人間の生涯にわたる心理学的発達とそれにかかわる家族（家庭）の機能との力動的な関係について学ぶ。また、現代の日本で家庭生活を営む中で直面する問題について、経済や産業のあり方との関係を踏まえ、社会保育学的視点から検討する。				
学生に対する評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) 期末試験 70 点 (2) 講義時におけるリアクションペーパー 30 点 				
教科書（購入必須）	大倉得史・新川泰弘 編 2020 『子ども家庭支援の心理学入門』 ミネルヴァ書房				
参考書（購入任意）	<ol style="list-style-type: none"> (1) 高橋恵子・波多野誼余夫 著 1990 『生涯発達の心理学』 岩波書店 (2) 我部山キヨ子・菅原ますみ 編 2016 『(助産学講座) 基礎助産学(4) 母子の心理・社会学 第5版』 医学書院 (3) 柏木恵子 著 2013 『おとなが育つ条件：発達心理学から考える』 岩波書店 (4) 小田切紀子・野口康彦・青木聡 編/内田伸子他 著 2017 『家族の心理』 金剛出版 (5) 団士郎 著 2013 『対人援助職のための家族理解入門：家族の構造理論を活かす』 中央法規出版 (6) 滝川一廣 著 2017 『子どものための精神医学』 医学書院 (7) 小出まみ 著 1999 『地域から生まれる支えあいの子育て：ふらっと子連れで Drop - in!』 ひとなる書房 				

科 目 名	保育指導論				
担 当 教 員 名	棚橋 裕子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている「ねらい」「内容」を基に、具体的な保育計画作成についての方法や作成における留意点、また、実践の系統性や計画と実践の往還性についてカリキュラムマネジメントの観点から指導を行う科目				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方法の基礎理論の理解を基底に、カリキュラムの意義や内容についての理解を深める。 ・発達理解を踏まえ、教育方法の理論に基づいた指導・援助、技術について理解する。 				
授 業 の 概 要	幼稚園教育要領の理解を基に、教育方法の基礎理論について具体的な事例を取り上げながら、指導・援助のあり方など保育技術について理解する。また、教育課程・指導計画と保育の関連性についての理解とともに、実践に根ざした指導のあり方を学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 保育とは 2 幼稚園、保育園、認定こども園における保育の内容 3 教育課程、保育課程の意義と理解 4 幼児期の遊びと発達の意義 5 環境を通して行う保育の意義と保育者の役割① 6 環境を通して行う保育の意義と保育者の役割② 7 子ども理解に基づいた保育のあり方① 8 子ども理解に基づいた保育のあり方② 9 子どもの遊びの多様性と経験の捉え 10 子どもの育ちに即した環境の作り方、捉え方① 11 子どもの育ちに即した環境の作り方、捉え方② 12 保育における ICT の活用 13 子どもの育ちが見える保育記録 14 指導計画の作成と保育の展開① 15 指導計画の作成と保育の展開② 				
授 業 の 留 意 点	講義形式の授業ではあるが、演習やディスカッションも含めるため、授業を通して能動的に考えたり発言したりすること。				
学 生 に 対 す る 評 価	授業内レポート（20点）期末試験（70点）授業態度（10点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	授業において資料を配付				

科 目 名	保育内容総論				
担 当 教 員 名	高島裕美				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容の基本理念と成り立ちを理解し、保育施設における教育課程ならびに指導計画編成の意義・目的について理解する。 ・保育施設の実情や乳幼児の発達に即した環境構成をベースとした指導計画を立案することで、総合的な保育展開の在り方を学ぶ。 				
授 業 の 概 要	保育・幼児教育の基本と保育内容および領域の概念について理解し、乳幼児の発達と成長を促すための教育課程ならびに指導計画の在り方について、実践的に学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 幼児教育の基本と保育内容・カリキュラム 2 保育内容・カリキュラムの歴史の変遷 3 保育カリキュラムの編成原理と子ども観 4 教育課程・保育課程の編成とカリキュラム・マネジメント 5 幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育内容の理解 6 子どもの発達と保育内容 7 子ども理解と評価 8 養護と教育の一体性と保育内容 9 保育における計画① 指導計画の作成 10 保育における計画② 計画の展開と評価 11 幼児教育と小学校教育の連携・接続を見据えた保育内容 12 諸外国の保育内容・カリキュラム 13 これからの保育内容①多様な保育ニーズとさまざまな保育形態 14 これからの保育内容②多文化共生の保育 15 まとめ—子どもの主体性と保育内容・カリキュラムの関係性 				
授 業 の 留 意 点	講義形式と演習形式を適宜使い分けながら実施する。特に後半では、ペアまたはグループでの指導計画の作成作業に取り組むので、積極的な態度での参加を期待する。				
学 生 に 対 す る 評 価	提出課題（60点）、小テスト（30点）、授業への参加状況（意欲・態度）（10点）により評価する。				
教 科 書 （購入必須）	岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正『教育課程・保育の計画と評価 —書いて学べる指導計画—』萌文書林、2018年				
参 考 書 （購入任意）	『＜平成29年告示＞幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』チャイルド本社				

科 目 名	保育内容・言葉				
担 当 教 員 名	石本 啓一郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」について理解する。 ・乳幼児期の言語発達を理解する。 ・子どもの言葉の育ちを支える指導法および保育者の役割を理解する。 				
授 業 の 概 要	保育内容「言葉」について、幼稚園教育要領におけるねらいと内容の理解、子どもの言語発達の理解を基盤とし、子どもの言葉の育ちを支えるための指導法を実践的に学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」 3 子どもの言葉の発達① 乳児期 4 子どもの言葉の発達② 幼児期 5 子どもの言葉の発達③ 幼児期の言葉から児童期の言葉へ 6 自分の考えや思いを伝える言葉 7 遊びと言葉① 言葉の音を楽しむ 8 遊びと言葉② 虚構遊びにおける言葉 9 遊びと言葉③ 文字との出会い 10 子どもの言葉を育む保育の実際① 言葉遊び・わらべうた 11 子どもの言葉を育む保育の実際② 絵本・紙芝居 12 子どもの言葉を育む保育の実際③ ストーリーテリング 13 模擬保育① おはなし会の指導案作成 14 模擬保育② 指導案に基づく模擬保育と振り返り 15 幼児教育の現代的課題と保育内容「言葉」 ～小学校とのつながりを中心に 				
授 業 の 留 意 点	積極的に授業に参加して欲しい。				
学 生 に 対 す る 評 価	提出課題（40点）および期末レポート（60点）により評価する。				
教 科 書 （購入必須）	適宜プリント等を配布する。				
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	保育内容・人間関係 I				
担 当 教 員 名	糸田 尚史				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	児童相談所と児童家庭支援センターにおいて「遊び方教室」の開催などの実務経験を有する教員が、子どもの社会性や対人技能の発達を支援する方法などについて指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの自立心を育て、子どもの対人関係力を涵養できる保育者をめざす。 ・領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。 ・幼児期の人間関係の発達を理解する。 ・教育実践における保育内容「人間関係」の支援法（指導法）について修得する。 				
授 業 の 概 要	子どもが人と親しみ、支えあって生活するための領域「人間関係」について、幼児期の人間関係の発達の特徴を学ぶ。子どもが自立心を持ち、人とかかわる力を涵養するために保育者が幼児期の教育において構成すべき保育内容の支援法（指導法）を種々の演習により実践的に理解する。具体的にはテキスト、映像、スライド、ホワイト・ボード、紐、紙、テープ、情報機器などのツールも活用して、模擬保育、集団遊び、集団ゲーム、ロールプレイ、即興劇（サイコドラマ）、集団討論、グループワークなどの方法も取り入れながら、演習する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 領域「人間関係」の内容とねらい（なんでもバスケット、自己開示） 2 幼児期の人間関係の発達（1）子どもと養育者とのアタッチメントや信頼関係の発達（寄り道散歩①） 3 幼児期の人間関係の発達（2）子どもどうしの仲間関係における情緒・社会性の発達（花一匁、王様・大臣・門番、じゃんけん） 4 幼児期の人間関係の発達（3）子どもの人間関係をめぐる現代的課題（心理ゲーム①） 5 学童期以降の人間関係の発達（心理ゲーム②） 6 子どもと保育者とのアタッチメントや信頼関係の形成（手遊び歌①） 7 子どもの社会的自我の発達と社会情動の自己コントロール（人間関係の絵本） 8 子ども集団のなかでのトラブルへの介入・支援（即興劇） 9 遊びにおける人間関係（1）遊びをとおして対人関係性の発達を促す支援（遊び方教室①） 10 遊びにおける人間関係（2）周辺環境のアフォーダンスを活用した遊び（寄り道散歩②） 11 遊びにおける人間関係（3）ICT（情報通信技術）を活用した遊び（手作りゲーム） 12 遊びにおける人間関係（4）脳（前頭葉）の発達を促す社会情動的スキル遊び（手遊び歌②） 13 幼児期の人間関係におけるつまずき（1）神経発達症（気になる子）への支援（遊び方教室②） 14 幼児期の人間関係におけるつまずき（2）家庭との連携、専門職連携（遊び方教室③） 15 子どもたちの社会的環境と領域「人間関係」（人間関係を語る） 				
授 業 の 留 意 点	動きやすい服装での出席を指示することがある。 表現演習室での実践的な演習が基本となるが、ときに音楽室・児童文化演習室・屋外（大学周辺）などで行うこともある。 グループに分かれての討論や実技には積極的に参加していただきたい。				
学 生 対 する 評 価	中間レポート（20点）・試験（60点）・提出物（20点）の合計点で評価する。提出物は毎時の「気づきと学び」にかかわるリアクション・ペーパーの作成・提出である。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	陳省仁・古塚孝・中島常安 編 『子育ての発達心理学』 同文書院 2003年 幼少年教育研究所 編 『遊びの指導：乳・幼児編』 同文書院 2009年				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	森口佑介 著 『自分をコントロールする力：非認知スキルの心理学』 講談社 2019年 文部科学省 著 『平成29年告示・幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』 チャイルド本社 2017年 無藤隆・古賀松香 編 『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」：乳幼児期から小学校へつなぐ非認知的能力とは』 北大路書房 2016年 無藤隆 監修・指導 『スキルあそび45：人とかかわり方を育てる』 日本標準 2010年				

科 目 名	保育内容・人間関係Ⅱ				
担 当 教 員 名	及川 智博				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	乳幼児が他者とのかかわり合い（相互作用）を通じて発達するプロセスについての理解を深めます。その上で、子どもたちの人間関係の形成に対して、保育者をはじめとする大人が果たす役割について、自ら考察できるようになることを目指します。				
授 業 の 概 要	乳幼児期の発達理論や対人理解のあり方に関する整理を基礎としつつ、子どもの人間関係の発達と援助のあり方を具体的に把握します。映像資料や文章事例の考察、そして受講生自らが問いを立て学生同士で意見を交わす「事例検討会」の開催を通じて、理論と実践の両面から、子どもの人間関係を育む保育者のあり方について理解を深めます。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーションー子どもの人間関係における大人ー 2 人間関係の発達（1）ー0～1歳児における他者の見え方・理解の仕方ー 3 人間関係の発達（2）ー2歳児における他者の見え方・理解の仕方ー 4 人間関係の発達（3）ー3歳児における他者の見え方・理解の仕方ー 5 人間関係の発達（4）ー4歳児における他者の見え方・理解の仕方ー 6 人間関係の発達（5）ー5歳児における他者の見え方・理解の仕方ー 7 演習へ向けた準備（1）ー「事例検討会」の内容と目的ー 8 演習へ向けた準備（2）ーグループによる提案事例の精選ー 9 演習Ⅰー受講生提案による事例検討会 1日目ー 10 演習Ⅱー受講生提案による事例検討会 2日目ー 11 演習Ⅰ・Ⅱの振り返り 12 演習Ⅲー受講生提案による事例検討会 3日目ー 13 演習Ⅳー受講生提案による事例検討会 4日目ー 14 演習Ⅲ・Ⅳの振り返り 15 講義のまとめー乳幼児期の人間関係をめぐる援助を再考するー 				
授 業 の 留 意 点	演習科目のため、グループでのディスカッションや演習を実施します。授業参加や演習のためには、予習が必要となることがあります。積極的な参加を期待します。				
学 生 対 する 評 価	講義時のリアクションペーパー（20点）、授業態度および演習の様子（30点）、最終レポート（50点）の結果をもとに総合的に評価します。				
教 科 書 （購入必須）	指定しない				
参 考 書 （購入任意）	指定しない（授業の進行やリアクションペーパーの内容に応じて適宜紹介します）				

科 目 名	保育内容・環境 I				
担 当 教 員 名	岡 健吾				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「環境」のねらいと内容を理解する。 ・乳幼児期の子どもと環境とのかかわりについて学び、保育実践における保育内容「環境」の指導法を理解する。 				
授 業 の 概 要	<p>子どもは、人や社会、自然など、さまざまな環境に取り巻かれて育つ。この授業では、それらについて学び、保育内容「環境」に関する基礎的な理解をする。また、周囲の環境に対する子どもの好奇心・探究心を高め、子どもがそれらに積極的に関わっていくための保育方法について学ぶ。授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていく。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育内容・環境の全体構造 2 領域「環境」のねらいと内容 3 子どもを取り巻く環境 4 乳幼児期の子どもと環境とのかかわりの特性 5 子どもの好奇心と探求心の芽生え 6 子どもと環境（1）自然環境とのかかわり 7 子どもと環境（2）生き物とのかかわり 8 子どもと環境（3）生活の中での文字・数・図形とのかかわり 9 子どもと環境（4）身近なモノとのかかわり 10 子どもと環境（5）生活にかかわる情報や施設への興味・関心、情報機器の活用法 11 人的環境としての友だちや保護者 12 子どもの好奇心と探求心を高める環境構成 13 模擬保育（1）保育内容「環境」に関する指導案作成と評価方法 14 模擬保育（2）指導案に基づく模擬保育と振り返り 15 まとめー保育内容「環境」をめぐる保育者の役割と小学校との連携 				
授 業 の 留 意 点	<p>授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていくので、活発な論議を行う上で予習を行うこと。野外で観察を行う時は、前時にアナウンスするので行動しやすい服装、準備をすること。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>授業の取り組み方・意欲 20 点、制作物 20 点、発表 20 点、期末レポート 40 点</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>幼稚園教育要領</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)	<p>必要に応じて適宜指示する。</p>				

科 目 名	保育内容・環境Ⅱ				
担 当 教 員 名	担当者未定				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択・幼稚園：選択
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	・「保育内容・環境Ⅰ」の指導法を実践的に学び、保育実践の在り方を考察する。				
授 業 の 概 要	「保育内容・環境Ⅰ」で学習したことを踏まえ、指導法について実践的に学ぶ。自然や社会など身近な環境に子どもがいかにかかわっていくか、積極的にかかわっていくにはどんな力が必要なのか、保育者も含めた人的環境の大きさについて考えると共にその指導法を実践的に学ぶ。授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていく。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 領域のねらい及び内容の理解、全体構造の理解他 2 自然環境（１）身近な自然を観察する 3 自然環境（２）自然のなかでの遊び 4 植物（１）植物を観察する 5 植物（２）植物栽培と保育実践 6 動物（１）身近な生き物を探す 7 動物（２）動物飼育と保育実践 8 子どもの自然体験と保育方法（１）「森のようちえん」のカリキュラムと実践 9 子どもの自然体験と保育方法（２）模擬保育①指導案の作成 10 子どもの自然体験と保育方法（３）模擬保育②指導案に基づく模擬保育 11 幼稚園・保育所における環境整備の在り方、情報機器の利用法 12 身近な動植物とのふれあいができる園庭の整備 13 子どもと文化的環境（１）北海道の環境と保育実践 14 子どもと文化的環境（２）「森のようちえん」と保育実践 15 まとめ 幼稚園教育の評価・小学校の教科等へのつながり 				
授 業 の 留 意 点	授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていくので、活発な論議を行う上で予習を行うこと。野外で観察を行う時は、前時にアナウンスするので行動しやすい服装、準備をすること。				
学 生 対 する 評 価	授業の取り組み方・意欲 20 点、制作物 20 点、発表 20 点、定期試験 40 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』				
参 考 書 (購 入 任 意)	必要に応じて適宜指示する。				

科目名	保育内容・健康 I				
担当教員名	三井 登				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「健康」のねらいと内容を理解し、その指導法を修得する。 ・子どもの発達を支える領域「健康」の役割と、その保育実践の在り方について理解する。 ・身体を使った遊びを実践的に学び、その知識・技術を習得する。 				
授業の概要	<p>領域「健康」の内容を実践動向などから理解し、自ら計画し実践する。また、子どもの発達を支える援助や指導の在り方について具体的な事例を紹介し、その実践的意味について理解する。「健康」に関わる保護者支援の場面などを想定し、保育者として必要な実践的知識と技術を身につける。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンス 園の現状や諸課題について 2 保育内容「健康」について 幼稚園教育要領・保育所保育指針が目指すもの 3 子どもの心身の発育と発達 形態の発育、生理機能の発達などを学ぶ 4 生活習慣の獲得と保育者の関わり 基本的な生活習慣や安全に関する指導・援助を学ぶ 5 園生活のリズムと子どものリズム 家庭との連携を視野に（子育て支援の実際） 6 子どもの心身の健康を保障する環境構成について 7 子どもの心身の健康 園生活全体と長期的展望から捉える 8 「健康」の具体的内容と保育指導案 情報機器の活用法と教材研究の基本的な考え方 9 教材研究1（運動遊び・体育遊びの展開1）運動機能の発達、心の発達などを学ぶ 10 教材研究2（運動遊び・体育遊びの展開2）遊具・器具を使った運動遊びを学ぶ 11 健康と食育 健康の指導、食育の指導における取り組みと指導案について考える 12 模擬授業1（運動遊び・体育遊びの展開3）鬼ごっこなどの指導の実際を学ぶ 13 模擬授業2（運動遊び・体育遊びの展開4）競い合う遊びの指導の実際を学ぶ 14 模擬授業3（運動遊び・体育遊びの展開5）外遊びの実際と心身の発達との関係 15 まとめと振り返り 				
授業の留意点	参考文献・資料に目を通すこと。				
学生に対する評価	意欲・態度20点、提出物80点				
教科書（購入必須）	文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館				
参考書（購入任意）	授業の中で適宜紹介する。				

科 目 名	保育内容・健康Ⅱ				
担 当 教 員 名	三井 登				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>「保育内容・健康Ⅰ」での学修をふまえ、以下の点を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領域「健康」の観点から子どもの発達を保障する実践的課題と方法について学ぶ。 ・領域「健康」に関する指導計画、環境構成、保育者の役割について実践的に学ぶ。 ・運動意欲を育む指導、危険や安全を意識するための教師の具体的援助や指導について学ぶ。 ・食育の方法や子どもの健康を保障するための子育て支援の具体的方法について学ぶ。 				
授業の概要	<p>領域「健康」で対象とする、心身の発達、運動指導、生活習慣、安全、食育などについて、先進的実践から学びながら、学生自身が調査研究する。指導計画を立てて実践し、集団で議論しながら課題を発見し、子どもの発達を教師が保障する指導の在り方を学ぶ。また、保護者と保育者・園との関係を、子どもの心身の発達保障という観点から、その共同の在り方を検討する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンス 2 子どもの健康 運動・食事・睡眠 3 子どもの心身の発育と発達 欲求と運動 4 保育内容としての「健康」 幼稚園教育要領、保育所保育指針より環境構成、保育者の役割学ぶ 5 運動遊びの系統的指導からみた年間計画等の指導計画を考える 6 生活習慣の獲得と保育者のかかわり 基本的生活習慣・安全についての指導・援助を学ぶ 7 基本的生活習慣、運動遊び、安全生活に関わる指導計画について調べて発表する 8 子育て支援・児童虐待について 保護者との関係性の構築と共同の在り方を実践例から学ぶ 9 教材研究1（運動遊び・体育遊びの展開その1）運動機能の発達・心の発達と教材の選び方 10 模擬授業1（運動遊び・体育遊びの展開その2）鬼ごっこあそびなどの指導案の実践 11 教材研究2（運動遊び・体育遊びの展開その3）運動あそびの系統的指導の研究方法を遊具・器具を対象にして学ぶ 12 模擬授業2（運動遊び・体育遊びの展開その4）競い合う遊びの指導案の実践 13 健康と食育について 食育の指導における取り組みについて調べ指導計画を立てる 14 食育の取り組みから学んだことを実践する 15 まとめと振り返り 				
授業の留意点	授業の中で適宜紹介する。				
学生に対する評価	意欲・態度20点、提出物80点				
教科書（購入必須）	文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館 白石正久『発達の扉<上>』かもがわ出版、1994年				
参考書（購入任意）	授業の中で適宜紹介する。				

科 目 名	保育内容・表現 I				
担 当 教 員 名	三国和子・堀川真・石本啓一郎				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域「表現」のねらいと内容を理解し、表現についての一般的概念や子どもの表現の発達に関する知識を学び指導法を身につける。				
授業の概要	領域「表現」に関わる基礎的な学習の後、環境構成や教材の提示及び情報機器の活用情報機器の表現の受容など多方面から指導法について学ぶ。実技やグループワーク、模擬保育等も行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション (担当：三国) 2 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「表現」の理解 (担当：石本) 3 子どもの表現の発達① 音楽 (担当：三国) 4 子どもの表現の発達② 造形 (担当：堀川) 5 素材との出会い① 自然との関わり (担当：石本) 6 素材との出会い② 環境の構成・情報機器の活用 (担当：堀川) 7 美的感動の喚起 ー保育者の役割 (担当：堀川) 8 感動の伝えあいと共有 (担当：石本) 9 表現の方法① 言葉 (担当：石本) 10 表現の方法② 絵 (担当：石本) 11 表現の方法③ 工作 (担当：堀川) 12 表現の方法④ 楽器あそび (担当：三国) 13 模擬保育① 指導案作成 (担当：三国) 14 模擬保育② 実習 (担当：三国、堀川、石本) 15 まとめ (担当：三国、堀川、石本) 				
授業の留意点	各分野のつながりを意識しながら受講すること。				
学生に対する評価	授業態度 (30点)、課題提出 (30点)、最終レポート (40点) により評価する。				
教科書 (購入必須)	文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館 保育音楽研究プロジェクト編『青井みかんと一緒に考える幼児の音楽表現』大学図書出版				
参考書 (購入任意)	厚生労働省『保育所保育指針』、その他必要な際に提示する。				

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ（音楽）				
担 当 教 員 名	三国 和子				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえ、領域「表現」における音楽活動の内容及び指導についてより高度な知識・技能を身につける。				
授 業 の 概 要	保育内容の領域「表現」のうち音楽分野を扱う。保育の現場で行われる音楽活動やそれを通して養われる子どもの音楽的感性や表現に関する事項について、実技やグループワークを交えながら学ぶ。また、それを踏まえ、表現領域での音楽活動についての支援のあり方について深めていく。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨN 保育における音楽の位置づけ 2 子どもの音楽表現とその発達①（グループワーク）観察 3 子どもの音楽表現とその発達②（グループワーク）考察 4 子どもの音楽表現とその発達③（全体）報告とまとめ 5 音楽活動のねらい 6 音楽活動の教材研究① レクチャー 7 音楽活動の教材研究② 演習 8 音楽活動の指導① レクチャー 9 音楽活動の指導② 演習 10 音楽活動の指導③ 模擬保育 11 音楽活動のメソッドとアプローチ① レクチャー 12 音楽活動のメソッドとアプローチ② 演習 13 音楽遊びの実践①（グループワーク） 14 音楽遊びの実践②（全体） 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	場合によっては動きやすい服装が必要となることがある。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポート課題（50点）、授業における課題提出（50点）によって評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館 保育音楽研究プロジェクト編『青井みかんと一緒に考える幼児の音楽表現』大学図書出版				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	小林美実『こどものうた200』チャイルド社				

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ（造形）				
担 当 教 員 名	堀川 真				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通して、内面世界の発達と心の理解を指導する科目				
学 習 到 達 目 標	「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえ、造形活動の実際を体験し、月齢に応じた指導上での留意点や工夫について考えながら、より高度な知識・技能を身につける。				
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・前半の「多様な素材」は、材料や環境に向き合いながら、子どもの反応を想定した活動ができるよう制作に取り組む。 ・後半の「絵本づくり」は、着想から製本までの総合的な制作を通して、こどもの発達に対応した絵本づくりや絵本理解を身につける。絵本の内容については個別に対応し、個々の発想を重視した活動とする。 				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 風とあそぶ 2 多様な素材 (1) 厚紙：ハンペルマン 3 多様な素材 (2) 箱：カメラ 4 多様な素材 (3) 土：石膏型取り 5 多様な素材 (4) 水：染めあそび 6 多様な素材 (5) 古紙：新聞紙であそぶ 7 多様な素材 (6) 廃材：街をつくる 8 様々な造形パフォーマンス 9 絵本づくり (1) 構想 10 絵本づくり (2) 下絵～彩色 11 絵本づくり (3) 彩色～仕上げ 12 絵本づくり (4) 製本の技法 13 絵本づくり (5) 糊付け 14 絵本づくり (6) 製本 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	必要に応じて道具・材料を提示するので準備すること。				
学 生 に 対 す る 評 価	授業における取り組みと提出物(70点)、内容(30点)。				
教 科 書 (購入必須)	必要に応じてその都度プリントを配布する。				
参 考 書 (購入任意)	特になし				

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ（言語）				
担 当 教 員 名	石本 啓一郎				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえ、以下の事項についてより高度な知識・技能を身につける。				
授 業 の 概 要	まず、子どもの想像力の発達についての知識を提供する。それに基づいて受講者は、子どもの言語表現を育てる教材や指導法を学ぶ。全体を通じて、言語表現が豊かに育つときの保育者の役割について理解を深める。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 子どもの想像力の発達① 現実と想像の世界 3 子どもの想像力の発達① 絵画表現 4 虚構遊びにおける表現① 言葉の役割とは 5 虚構遊びにおける表現② 物を使って言葉を導く 6 虚構遊びにおける表現③ 身振りと言葉 7 表現を育てる資源① 映像 8 表現を育てる資源② 資源 9 表現を育てる資源③ 詩的表現 10 自然観察における表現① 経験の言語化 11 自然観察における表現② 科学の言葉と想像 12 自然観察における表現③ 虚構遊びと自然探索の言語表現 13 模擬保育「私のそばにあったもの」① 子どもの興味と言語 14 模擬保育「私のそばにあったもの」② 地域や風土と言語 15 まとめー乳幼児の言語表現と小学校の連携 				
授 業 の 留 意 点	さまざまなワークショップやディスカッションをおこなう。積極的に授業に参加して欲しい。				
学 生 対 する 評 価	課題提出（40点）、期末レポート（60点）により評価する。				
教 科 書 （購入必須）	必要に応じて資料を配付する。				
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	乳児保育 I				
担 当 教 員 名	及川 智博				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳児保育の意義・目的・役割と、その歴史の変遷について理論的にとらえ理解する。 ・ 3歳未満児における発達と、それを踏まえた保育内容・運営体制について理解する。 ・ 乳児保育をめぐる家庭や地域との連携について理論的にとらえ理解する。 				
授 業 の 概 要	<p>乳児保育の基本理念・歴史の変遷・現代的課題について学び、現代社会において乳児保育が果たす役割について考察します。そのために、乳児期の子どもの発達プロセスや、その発達を支える周囲の世界のあり方を総合的に把握した上で、保育者に求められる基本的な役割と留意点を学びます。授業は、映像資料や保育記録の考察・ディスカッション、またグループでの作業も取り入れながら進めていきます。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション－乳児保育の役割と機能－ 2 乳児の発達と保育（1）－未満児の発達の基本的特徴－ 3 乳児の発達と保育（2）－未満児から以上児への移行－ 4 乳児保育の内容・方法・生活（1）－大人・モノと遊ぶ－ 5 乳児保育の内容・方法・生活（2）－友だちと共に・全身をつかって遊ぶ－ 6 乳児保育の内容・方法・生活（3）－遊びと環境・文化・保育士の役割－ 7 乳児保育における親の発達と支援 8 乳児保育における保育士のあり方 9 乳児保育における記録と計画 10 保育所内・外における乳児保育 11 乳児保育の歴史・意義・役割（1）－第二次世界大戦以後－ 12 乳児保育の歴史・意義・役割（2）－高度経済成長期－ 13 乳児保育の歴史・意義・役割（3）－昭和から平成へ－ 14 乳児保育をめぐる現状と課題 15 講義のまとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>適宜、グループでの作業（ディスカッションや簡単な作業）も取り入れますので、各自が責任を持って積極的に取り組んでください。</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>毎回の講義のリアクションペーパー（20点）、最終試験（80点）をもとに総合的に評価します。</p>				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<p>乳児保育研究会（編）『資料でわかる乳児の保育新時代』 ひとなる書房</p>				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	<p>心理科学研究会（編）『新・育ちあう乳幼児心理学：保育実践とともに未来へ』 有斐閣 （その他、授業の進行やリアクションペーパーの内容に応じて適宜紹介します）</p>				

科 目 名	乳児保育Ⅱ				
担 当 教 員 名	及川 智博				
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満児における子どもの発達の特徴をふまえた保育者のあり方について理解する。 ・3歳未満児にふさわしい生活、遊び、環境構成、援助および配慮について具体的かつ実践的に理解する。 ・乳児保育における計画の意義と具体的展開について理解する。 				
授 業 の 概 要	<p>乳児保育Ⅰおよび保育実習Ⅰでの学修を受けて、3歳未満児の発達を踏まえた保育の基本を振り返りつつ、具体的な子どもの生活や遊びの様子、環境構成のあり方、そしてそれを支えるための保育者の援助と計画のあり方を学びます。授業のなかでは、映像資料や保育記録の考察・ディスカッション、また現場の保育者をゲストスピーカーとした講演・講習などを通して、理論と実践の両面から理解を深めていきます。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーションー乳児保育Ⅰと保育実習Ⅰを受けてー 2 乳児保育の基本を再考する（1）ー乳児保育における未満児と保育者の関係性ー 3 乳児保育の基本を再考する（2）ー子どもの主体性と応答的かわりー 4 乳児保育の基本を再考する（3）ー集団生活の意義と配慮ー 5 乳児保育の基本を再考する（4）ー遊びと環境ー 6 乳児保育における援助（1）ー乳児保育における1日ー 7 乳児保育における援助（2）ー健康・安全・事故ー 8 乳児保育における援助（3）ー食事ー 9 乳児保育における援助（4）ー排泄と清潔ー 10 乳児保育における援助（5）ー睡眠ー 11 特別な配慮を要する子どもー病気・障害・虐待・ルーツー 12 乳児保育における計画（1）ー子どもの姿・活動の記録ー 13 乳児保育における計画（2）ー全体的な計画から指導計画へー 14 乳児保育における計画（3）ー指導計画を作成するときのたいせつなことはー 15 まとめと振り返り 				
授 業 の 留 意 点	<p>演習（グループでの作業やディスカッション）を積極的に取り入れながら授業を進めます。各自が責任を持って、積極的に取り組んでください。</p>				
学 生 に 対 す る 価 値	<p>講義時のリアクションペーパー（20点）、授業態度および演習の様子（30点）、最終レポート（50点）の結果をもとに総合的に評価します。</p>				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	指定しない				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	<p>乳児保育研究会（編）『資料でわかる乳児の保育新時代』ひとなる書房 （その他、授業の進行に応じて適宜配付します）</p>				

科 目 名	就学児保育 A (思春期の支援)				
担 当 教 員 名	宮内俊一・佐々木彰				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保育士：選択
実務経験及び授業内容	児童相談所及び児童養護施設等で臨床経験を持つ教員が、思春期の子どもたちが抱える様々な課題への支援を指導する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における就学児保育の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 就学児保育と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。 3. 就学児保育の制度や実施体系等について理解する。 4. 就学児保育における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。 5. 就学児保育の現状と課題について理解する。 6. 就学期の子どもたちの心の問題をよく理解した上での支援が行える。 				
授業の概要	思春期は、心身ともに大きな成長を遂げる時期であるが、それ故にまた、それまでの心と育ちの課題がいじめや、非行、不登校などのいわゆる「問題行動」として現れやすい時期でもある。それら「問題行動」への対応は、その後の子どもの成長に大きな影響を与える。この授業では、この時期の子どもたちをどのように理解し、支援していくかを学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 就学児を取り巻く状況 (担当宮内俊一) 2 神経発達症(発達障害) (担当佐々木彰) 3 愛着障害 (担当佐々木彰) 4 ストレス因関連障害(適応障害、PTSD等) (担当佐々木彰) 5 心身症、身体症状症(身体表現性障害) (担当佐々木彰) 6 反抗挑発症、素行症、窃盗症 (担当佐々木彰) 7 うつ、情緒障害、不安症 (担当佐々木彰) 8 嗜癖性障害(インターネットゲーム障害、電子メディア依存症等) (担当佐々木彰) 9 摂食障害、緘黙、チック症/トゥレット症など (担当佐々木彰) 10 虐待を受ける子どもたち (担当宮内俊一) 11 児童養護施設等の子どもたち (担当宮内俊一) 12 非行少年 (担当宮内俊一) 13 ひきこもり・不登校児童 (担当宮内俊一) 14 情緒障害児 (担当宮内俊一) 15 スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー (担当宮内俊一) 				
授業の留意点	具体的な事例を取り上げて、一緒に考える機会を作る。また、関連するプリントも配布して使用する。事前学習を必須とする。 対面、場合によっては遠隔。				
学生に対する評価	提出物 70 点、講義における取組 30 点				
教科書(購入必須)	山縣文治編「よくわかる子ども家庭福祉」ミネルヴァ書房(宮内：1年次子ども家庭福祉Iで購入したものを使用するため再購入は必要なし)				
参考書(購入任意)	ミネルヴァ書房編集部編「社会福祉用語辞典」ミネルヴァ書房 山縣文治編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房				

科 目 名	就学児保育B（学童保育）				
担 当 教 員 名					
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保 育 士：選 択
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	学校現場で社会福祉士（SSW）として従事した教員による、放課後の子ども期の保障を考え、学童保育の歴史・制度、発達と生活について理解するために教授する科目				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育の理念・歴史・制度について理解する。 ・学童保育に通う子どもの生活と発達について理解する。 ・学童保育指導員の業務内容と専門性について理解する。 				
授 業 の 概 要	学童保育とは、児童福祉法では、「放課後児童健全育成事業」といい、保護者が就労等で家庭にいない小学生を対象に、放課後や学校の休業日の生活を豊かにすることを目的とした事業の総体を指す。近年、学童保育のニーズは、高まっているが、保育内容や専門職の養成など多くの課題がある。本講義では、学童保育の成り立ちや目的、関連法について学ぶとともに、学童保育における生活づくりの進め方や指導員の職務について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 学童保育の目的と役割 2 保育に活かす関係法案・施策の歴史的変遷 3 学童保育の役割と家族支援の関係 4 学童期の子どもの生活と発達 5 学童保育に通う子どもの理解 6 子どもの健康・安全・衛生 7 学童保育での 1 日の生活 8 障がいのある子どもを含めた生活づくり 9 保護者との連携・地域との連携 10 学校・関係機関との連携 11 学童保育での食事 12 安全対策・緊急時対応 13 職員集団と子どもへの対応 14 保護者相談と支援 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	各テーマについてグループディスカッションと発表を行う場合がある。				
学 生 に 対 する 評 価	課題の取組状況（50点）、レポート（50点）等で評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	資料を都度配布する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	病児・病後児保育				
担 当 教 員 名	佐々木俊子・永谷智恵				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	講義・演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<p>①病気の子ども、病気の回復期の子どもの保育に、保育士として求められる基本的な観察や対応方法を修得する。</p> <p>②家族への支援、多職種（医師、看護師など）との連携の在り方について学ぶ。</p>				
授 業 の 概 要	<p>病児・病後児保育の現状と課題および代表的な子どもの疾病について学習したうえで、症状を観察しながらの保育について考える。また、国内外における様々な取り組みから闘病生活を送る子どもや家族への支援の実際について学ぶ。グループワークによる演習を多く取り入れることにより実践的な学びを深め、現場の様々な問題解決にも対応できる保育士としての専門性や実践力の獲得を目指す。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 病児・病後児保育とは 2 病児の理解 3 病児の理解 4 病児・病後児保育室の一日 5 病児・病後児保育室の環境 6 病児・病後児保育の遊び 7 病児・病後児保育における子どものケア 8 病児・病後児保育における子どものケア 9 病児・病後児保育における子どものケア 10 病児・病後児保育における子どものケア 11 ケーススタディ① 12 ケーススタディ② 13 ケーススタディ③ 14 特別な配慮を必要とする子どもと家族への対応 15 特別な配慮を必要とする子どもと家族への対応 				
授 業 の 留 意 点	<p>保育の専門職者として、病気の子どもの生命を守り成長発達を促す保育とは何か、保育が担う責任を考えながら授業に参加してほしい。</p>				
学 生 に 対 す る 価	<p>毎回課題を提出、その内容により評価 100 点 欠席しても後日課題は提出してください。</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>資料を配付する。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	子どもの健康と安全				
担 当 教 員 名	佐々木俊子・永谷智恵				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	講義・演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児をこころよくできる養護について理解して実施できる。 2. 乳幼児の身体計測、体温・呼吸・脈拍の測定方法がわかり実施できる。 3. 乳幼児の緊急時の応急手当てについて理解して実施できる。 4. 安全な保育環境について理解することができる。 				
授 業 の 概 要	乳幼児の日常生活の養護、発育・健康状態の観察と評価、病気やケガなどに緊急時の対応について必要時演習を通して学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業概要と演習についてのオリエンテーション 2 保育環境の整備と保育現場における衛生管理 3 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康 4 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康 5 日常における養護 6 日常における養護 7 保育の場での薬の投与 8 乳幼児に多い緊急処置 9 体調不良が発生した場合の対応 10 体調不良が発生した場合の対応 11 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応 12 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応 13 傷害が発生した場合の対応 14 傷害が発生した場合の対応 15 いざというときの応急処置 				
授 業 の 留 意 点	講義で演習内容を説明しながら進行しますが、事前に教科書で手順を確認し積極的に実施できるように準備することが必要です。毎回授業時間内で演習課題の提出があります。				
学 生 に 対 す る 価 値	毎回の演習課題の提出と記載内容 100点 欠席した場合も後日演習課題の提出は必要です。				
教 科 書 (購入必須)	松本峰雄 監修 子どもの保健と安全 演習ブック ミネルヴァ書房				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	社会的養護Ⅱ				
担 当 教 員 名	担当者未定				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	児童福祉領域における社会的養護の体系や実情について学ぶ。とりわけ、児童福祉施設における支援や処遇の歴史、現状、将来展望などについて探求すると共に、自らがよき支援者となることを目標として、実践的に学習する。				
授業の概要	児童養護施設を中心に、他の児童福祉施設や里親制度など、社会的養護の法制度、支援のシステム、生活している子どもたちの実情などを学び、自立支援のあり方などについて考える。児童問題全体にわたり取り上げたいが、特に被虐待児童の理解と支援について重点をおいてすすめたい。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス（講義の概要と進め方） 2 社会的養護の体系Ⅰ～社会的養護の歴史と現状 3 社会的養護の体系Ⅱ～社会的養護の法制度、支援のシステム 4 施設養護の実際Ⅰ～児童養護系の施設（乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設）の現状 5 施設養護の実際Ⅱ～児童養護施設の生活形態と支援の実際 6 施設養護の実際Ⅲ～児童養護施設における支援のあり方と児童の権利擁護 7 家庭的養護の実際～里親制度と養子縁組制度 8 施設養護の実際Ⅳ～施設養護と家庭的養護の比較 9 施設養護の実際Ⅴ～児童自立支援施設、自立援助ホームにおける支援 10 施設養護の実際Ⅵ～障害のある子どもの施設①（知的障害児施設、情緒障害児短期治療施設） 11 施設養護の実際Ⅶ～障害のある子どもの施設②（肢体不自由児施設・重症心身障害児施設） 12 ケース記録・生活記録の意義と記録法 13 自立支援計画の策定の意義と方法 14 児童福祉施設の職員になるために～実習や就職活動の心構えと職員に求められるもの 15 まとめ 				
授業の留意点	スライドやDVD、レジュメなどを参考にしながら、積極的な発言を求めて進行します。社会的養護関連のニュースや動向などに興味・関心を持って授業に臨むことを求めます。				
学生に対する評価	授業の積極性、ミニレポート、課題レポートにより評価します。学年末レポート60点、ミニレポートなど20点、授業の積極性20点とし、総合的に評価します。				
教科書（購入必須）	『児童の福祉を支える【演習】社会的養護内容』 萌文書林				
参考書（購入任意）	『この子を受けとめて、育むために』（全国社会福祉協議会）、『明日の子供たち』（有川浩～幻冬舎）、『保育士をめざす人の社会的養護内容』（株）みらい、『めぐみ園の夏』（高杉良～新潮社）、『施設における子どもの非行臨床』（相澤仁・野田正人～明石書店）、『季刊・児童養護』（全社協）、『児童養護とは何か』（木下茂幸～明石書店）、『児童虐待から考える／社会は家族に何を強いてきたか』（杉山春～朝日新書）、『ネグレクト～真奈ちゃんはなぜ死んだか』（杉山春～小学館）、『凍りついた瞳』（ささやななえ/椎名篤子～集英社）、『大丈夫。がんばっているんだから』（渡井さゆり～徳間書店）、『赤い人』（吉村昭～講談社文庫）、『日本奥地紀行』（イザベラ・バード～平凡社）など。				

科 目 名	子育て支援				
担 当 教 員 名	宮内 俊一				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	保育士の行う子育て支援の特性、子育て支援の展開を理解する。その実際（内容・方法・技術）として子ども虐待等様々な問題を抱える家族を考え、具体的な実践事例を取り上げて、その意義を一緒に考察し理解を深める。				
授 業 の 概 要	子育て支援の概要、体系及び方法と技術、関係機関との連携や協働について基本的な知識を理解したうえで、子育て支援の具体的展開事例、保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。子育て支援の個々の課題についても、理論と実際の双方から具体的に考える。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの保育とともにを行う保護者の支援 2 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 3 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 4 子ども及び保護者の状況・状態の把握 5 支援の計画と環境の構成 6 支援の実践・記録・評価・カンファレンス 7 職員間の連携・協働 8 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 9 保育所等における支援 10 地域の子育て家庭に対する支援 11 障害のある子ども及びその家庭に対する支援 12 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援 13 子ども虐待の予防と対応 14 要保護児童等の家庭に対する支援 15 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解 				
授 業 の 留 意 点	基本的な概念や理論を踏まえて、具体的な実践事例によりその意味を一緒に考える機会を作る。対面、場合によっては遠隔。				
学 生 に 対 す る 評 価	提出物 70 点、講義における取組 30 点				
教 科 書 (購入必須)	適宜プリント等を配布する				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	子ども理解と教育相談				
担 当 教 員 名	糸田 尚史				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	児童相談所と児童家庭支援センターにおいて心理検査や家族療法など心理臨床の実務経験を有する教員が、子どもの発達及びその障害に関して心理学的な見地からの理解を促し、相談援助の方法などについて指導する科目				
学習到達目標	<p>テーマ：子どもの心や行動への理解と教育相談にかかわる心理学的理論及び実践方法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期の子ども理解にかかわる基礎的理論と幼児期の子どもの教育との関連を理解する。 ・ カウンセリングの基礎理論を理解し、カウンセリングに必要な諸技能を修得する。 ・ 教育相談の意義を理解し、教育支援の諸技法を実践できる。 ・ 幼児期の子ども発達と家庭や社会における現代的な諸問題について学び、それに対する実際的な支援方法（心理的支援やソーシャルワーク的支援）を状況即応的に応用できる。 				
授業の概要	心理学領域で発展してきた子ども理解のための基礎理論と方法、保健医療福祉分野で実践されてきた相談（ソーシャルワーク）やカウンセリングの基礎理論と方法を学び、教師が行う子ども理解と教育相談での活用について修得する。近年、注目されている神経発達症（発達障害）への理解とその教育相談も取り扱う。DSM-5やICD-11により名称や概念が変化しつつある発達症や情緒・社会性の発達にかかわる教育相談、支援の実際、教育支援（就学相談）、関係機関との連携等について解説する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの発達理解と教育相談の意義：定型発達（認知発達・人格発達）、発達の遅れと偏り、神経発達症群（発達障害）、心身の障害、非社会的行動、反社会的行動 2 子ども理解の理論①：愛着（アタッチメント）理論、認知発達理論、社会的認知理論、正統的周辺参加理論 学び合う共同体 3 子ども理解の理論②：幼児期の教育理論、社会・文化的アプローチ、社会構成主義的アプローチ、臨床発達心理学理論 4 子ども理解の理論③：フロイト理論（第一の勢力）と精神分析、スキナー理論（第二の勢力）と応用行動分析、ロジャース理論（第三の勢力）とカウンセリング 5 子ども理解の方法：行動観察法、面接法、社会診断、心理アセスメント法（新版K式発達検査2020、WPPSI-III、WISC-IV、KABC-II、DN-CAS、改訂版ITPA、各種投影法検査） 6 子ども・保護者への心理・教育的支援：カウンセリングマインドによるカウンセリング、遊戯治療、ナラティブ・セラピー、家族療法、長所活用型指導 2E/二重の特別支援教育 7 子どもの心理臨床①：現代における子どもの多様な臨床症状、神経発達症群（発達障害・気になる子）、心身の障害の理解と教育相談 8 子どもの心理臨床②：言語発達遅滞、コミュニケーション症、知的発達症（知的能力障害）等の教育相談 9 子どもの心理臨床③ 自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如・多動症（ADHD）、限局性学習症（SLD）、運動症（MD）等の教育相談 10 子ども・養育者の心理臨床：子ども・養育者における精神の障害への理解と支援 11 子どもの情緒・社会性の問題①：非社会的行動への理解と支援 12 子どもの情緒・社会性の問題②：反社会的行動への理解と支援 13 子どもの情緒・社会性の問題③：臨床社会心理学的な行動への理解と支援 14 子どもの教育支援：教育委員会の活動と教育支援（就学相談） 15 子ども相談と連携：地域での専門職連携（IPW）とソーシャルワーク、関係機関（児童相談所・児童家庭支援センター・教育委員会・児童発達支援事業所等）との連携、幼小の円滑な接続 				
授業の留意点	ケース・スタディやグループ・ワークでは積極的に参加し、活発に意見を述べ合うことを期待する。				
学生に対する評価	試験（60点）・提出物（20点）・受講態度（20点）の合計点で評価する。提出物は毎時の「気づきと学び」ペーパーの作成・提出である。				
教科書（購入必須）	陳省仁・古塚孝・中島常安 編 2003 『子育ての発達心理学』 同文書院 吉田武男監修 高柳真人・前田基成・服部環・吉田武男 編 2019 『MINERVA はじめて学ぶ教職16 教育相談』 ミネルヴァ書房				
参考書（購入任意）	<ol style="list-style-type: none"> (1) 藤田和弘 著 2019 『「継次処理」と「同時処理」 学び方の2つのタイプ：認知処理スタイルを生かして得意な学び方を身につける』 図書文化社 (2) 菊野春雄 編 2016 『乳幼児の発達臨床心理学：理論と現場をつなぐ』 北大路書房 (3) 佐伯胖 著 2014 『幼児教育へのいざない：改訂増補版』 東京大学出版会 (4) 佐伯胖・大豆生田啓友・汐見幸恵ほか 著 2013 『子どもを「人間としてみる」ということ』 ミネルヴァ書房 (5) 小山充道 編・糸田尚史 分担執筆 2008 『必携 臨床心理アセスメント』 金剛出版 (6) マクナミー&ガーゲンほか 著（野村・野口 訳） 2014 『ナラティブ・セラピー』 遠見書房 				

科 目 名	児童文化演習				
担当教員名	堀川 真・石本 啓一郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択・幼稚園：選択
実務経験及び授業内容	児童文化を研究している教員が、保育の現場における読み聞かせ等の読書活動やことばあそびの事例等を通して、児童文化の発達と表現力の向上を指導する科目				
学習到達目標	演習を通して児童文化への理解を深め、遊びの指導者としての技術・技能を身につけるとともに、創造することの喜びと感動を体験し、保育場面での活用意欲を高める。 絵本作家との対話を通し、絵本の魅力と表現への理解を深める。				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本読み聞かせの実演を全員に課す。 ・展開可能な工作を多く身につけ、子どものうちにある同時代的文化に速やかに対応できるようにする。 ・パネルシアターの制作と上演を通して、保育士としての表現力の向上をめざす。 ・動物園に行き、動物の特性を理解し、描く際のポイントを知る。 ・絵本作家による講義を通して絵本の魅力を理解するとともに、着想の背景や完成までの過程を知る。 				
授業の計画	1 オリエンテーション (担当:堀川) 2 お店屋さんごっこ(1) お弁当、たべもの (担当:堀川) 3 お店屋さんごっこ(2) ケーキ (担当:堀川) 4 お店屋さんごっこ(3) アクセサリー (担当:堀川) 5 お店屋さんごっこ(4) 各グループ任意制作 (担当:堀川) 6 お店屋さんごっこ(5) 発表会準備 (担当:堀川) 7 お店屋さんごっこ(6) 発表会 (担当:堀川) 8 紙芝居大会(1) 前半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川) 9 紙芝居大会(2) 後半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川) 10 パネルシアター(1) しかけの理解 (担当:堀川) 11 パネルシアター(2) 制作の実践・内容の検討 (担当:堀川) 12 パネルシアター(3) 制作の実践・材料の選択 (担当:堀川) 13 パネルシアター(4) 制作の実践・効果の確認 (担当:堀川) 14 パネルシアター(5) 発表会準備 (担当:堀川) 15 パネルシアター(6) 発表会 (担当:堀川)	16 あそびを組織する(1) 「あそびの大会」計画づくり (担当:堀川) 17 あそびを組織する(2) 「あそびの大会」ゲームづくり (担当:堀川) 18 あそびを組織する(3) 「あそびの大会」景品づくり (担当:堀川) 19 あそびを組織する(4) 「あそびの大会」準備 (担当:堀川) 20 あそびを組織する(5) 「あそびの大会」発表会 (担当:堀川) 21 動物を見つめる(1) 鳥類 (担当:石本) 22 動物を見つめる(2) 類人猿 (担当:石本) 23 動物を見つめる(3) 哺乳類 (担当:石本) 24 動物を見つめる(4) 爬虫類 (担当:石本) 25 動物を見つめる(5) 北海道産動物 (担当:石本) 26 動物絵本を知る(1) 構想 (担当:石本) 27 動物絵本を知る(2) 各場面を考える (担当:石本) 28 動物絵本を知る(3) 完成に至るまで (担当:石本) 29 動物絵本を知る(4) 動物学と民俗学 (担当:石本) 30 動物絵本を知る(5) まとめ (担当:石本)			
授業の留意点	必要に応じて道具・材料を提示するので準備すること。				
学生に対する評価	授業における取り組みと提出物(70点)、内容(30点)。				
教科書(購入必須)	必要に応じてその都度をプリントを配布する。				
参考書(購入任意)	特になし				

科 目 名	自然保育実践演習																													
担当教員名	三井 登・麻生 翼																													
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習																									
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件																										
実務経験及び授業内容																														
学習到達目標	自然に対する理解を深める。自然の中で生活することができる。自然の中で遊びをつくりだすことができる。リーダーとしての力を身につける。																													
授業の概要	この授業は、子どもの発達と自然の関係について理論的に学び、地域の自然環境を生かした保育実践を構想し、実践的に学び、方法を習得することを目的とする。子どもと自然の関係に関する理論と、先住民族文化、人間と自然の対立構造などを理論的に学ぶ。四季を通じた自然の中での生活や遊びの保育計画を5領域との関係を明確にしながら構想し実践することを通じて方法的理解を深める。方法の習得によって、自然体験リーダーの素養を身に付ける。																													
授業の計画	1 道北の自然	16 自然の中で生活するー野山で自生するものを食べるー	2 子どもと自然	17 自然の中で遊ぶー森あるき 春ー	3 保育における自然ー豊かな自然を生かすー	18 自然の中で遊ぶー森あるき 夏ー	4 保育における自然ー都市部の実践 身近な自然を感じるー	19 自然の中で遊ぶー森あるき 秋ー	5 プレーパークー歴史と実践ー	20 自然の中で遊ぶー森あるき 冬ー	6 人と自然、人も自然	21 自然の中で遊ぶー植物を使ってー	7 奥山、里山、宮沢賢治	22 自然の中で遊ぶー虫ー	8 野生動物と人間	23 自然の中で遊ぶー川ー	9 先住民族と自然	24 自然の中で遊ぶー雪遊び 寒さを利用した遊びー	10 リーダー論	25 自然の中で遊ぶー雪遊び 雪の特徴を生かした遊びー	11 自然の中で生活するー住居ー	26 自然の中で遊ぶー雪遊び 雪の特徴を生かした遊びー	12 自然の中で生活するー食器をつくるー	27 自然の中で遊ぶー雪遊び 雪の特徴を生かした遊びー	13 自然の中で生活するー火おこし ご飯を炊くー	28 自然の中で遊ぶー雪遊び 雪の特徴を生かした遊びー	14 自然の中で生活するー食事を作る 汁物を作るー	29 自然の中で遊ぶー雪遊び 雪の特徴を生かした遊びー	15 自然の中で生活するー野山に自生するものを食べるー	30 グループワークー振り返りとまとめの発表ー
授業の留意点	健康上の配慮が必要な学生は事前に相談すること。																													
学生に対する評価	提出物 70 点、授業への取り組み 30 点																													
教科書（購入必須）	なし																													
参考書（購入任意）	講義時に提示する。																													

科目名	国語				
担当教員名	石本 啓一郎				
学年配当	1年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	幼稚園：選択
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	(1) 人間の言葉が発達するとはどういうことかを考える。 (2) 子どもの言葉の発達を支える保育、教育を考える。 (3) 1、2に基づいて、保育、小学校国語科などの言葉に関わる多様な実践を捉え直せるようになる。				
授業の概要	前半は、言葉の発達にかかわる保育者に必要とされる知識を提供する。受講者はその知識をワークショップやディスカッションを通して獲得し、「言葉」について既に持っている常識を問い直す。それに基づいて後半は、保育をはじめとする言葉に関わる多様な実践を読み解き、言葉の発達における保育者の役割について理解を深める。				
授業の計画	1 オリエンテーション 2 言葉の進化① チンパンジーと人間の比較 3 言葉の進化② 意味世界をつくり出す 4 人間の言葉の発達① 音と言葉の比較 5 人間の言葉の発達② 他社との協働における言葉の役割 6 人間の言葉の発達③ 想像における言葉の役割 7 人間の言葉の発達④ ごっこ遊び、描画、書き言葉 8 言葉に関わる多様な実践① 夜間中学 9 言葉に関わる多様な実践② 精神障害者施設 10 言葉に関わる保育実践記録を読んでもみる① 0～2歳児の言葉遊び 11 言葉に関わる保育実践記録を読んでもみる② 3～5歳児の言葉遊び 12 言葉に関わる保育実践記録を読んでもみる③ 0～2歳児の描画と文字 13 言葉に関わる保育実践記録を読んでもみる④ 3～5歳児の描画と文字 14 保育と小学校国語科の関係 15 まとめ				
授業の留意点	さまざまなワークショップやディスカッションを行う。積極的に参加して欲しい。				
学生に対する評価	授業への参加を20点、課題提出を30点、期末レポートを50点として評価する。				
教科書 (購入必須)	講義時に資料を配布する。				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	生活				
担 当 教 員 名	前田 賢次				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	幼稚園：選択
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 生活科と幼児教育との教育内容の関わりを把握する。 具体的な作業を通して、遊びや活動の意味づけを理解する。 				
授 業 の 概 要	幼稚園教育と生活科のつながりについて実践的な活動を通して理解する。さらに、我が国の自然観と生活科の関連、地域に根付いた文化、環境を知り教材に活用する手法を発掘する。授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていく。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス 講義計画、評価方法 大学の自然環境① 身の回りの自然観察 大学の自然環境② 身の回りの自然を教材にする 大学の自然環境③ 教材発表 生活科の歴史的实践的系譜と展開① 戦前の名著「自然の観察」 生活科の歴史的实践的系譜と展開② アクティブラーニングと生活科 生活科の「授業」にふれる 生活科の教育内容論 (1) 生活科の目的 生活科の教育内容論 (2) 幼稚園教育と生活科の関わり 地域の歴史・文化・環境にふれる① 地域の中から教材となり得るテーマを発見する 地域の歴史・文化・環境にふれる② 発見したテーマを探求する 地域の歴史・文化・環境にふれる③ グループワーク・劇発表の手法と準備 劇発表① 劇発表② まとめ 				
授 業 の 留 意 点	授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていくので、活発な論議を行う上で予習を行うこと。野外で観察を行う時は、前時にアナウンスするので行動しやすい服装、準備をすること。				
学 生 対 する 評 価	授業の取り組み方・意欲 20 点、制作物 20 点、発表 20 点、定期試験 40 点				
教 科 書 (購入必須)	小学校学習指導要領生活				
参 考 書 (購入任意)	幼稚園教育要領、その都度紹介する。				

科目名	音楽 I				
担当教員名	三国 和子				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	演習
開講時期	通年	必修選択	必修	資格要件	保育士：必修・幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	保育者に求められる音楽理論に関する基礎的知識、歌唱や器楽、リズム運動等、幼児に指導するための基礎的技能を修得し、音楽に対して肯定的な態度を身につける。 子どもが他者と楽しさを共有できる音楽活動を構成し、実践できる。				
授業の概要	おとなとは異なる子どもの音楽表現の様態を理解し、保育者に求められる音楽の基礎的知識・技能を修得する。知識・理論とともに実技を行い、身体の動きと結びついた音楽表現や、幼児期に適した歌唱や器楽のあり方について学ぶ。さらには、音楽に対して肯定的な態度を身につけることをめざす。				
授業の計画	1 音名と階名、音部記号（理論と音楽あそびの演習）	16	歌唱の基礎		
	2 リズム(1)拍とテンポ（理論と音楽あそびの演習）	17	子どもの歌(1)	ピアノを用いて	
	3 リズム(2)拍子と音符の長さ（理論と音楽あそびの演習）	18	子どもの歌(2)	リコーダーを用いて	
	4 リズム(3)さまざまなパターン（理論と音楽あそびの演習）	19	子どもの歌(3)	替え歌	
	5 基本的な音楽記号－＃とbなど（理論と音楽あそびの演習）	20	音楽遊びをつくる		
	6 長調と短調、さまざまなモード（理論と音楽あそびの演習）	21	合唱		
	7 音を聴く（音楽あそびの演習）	22	楽器遊び(1)	幼児に適した楽器	
	8 楽譜のリテラシー（理論と音楽あそびの演習）	23	楽器遊び(2)	ミュージックベル	
	9 音楽と動き(1) リトミック(1) 基礎的な動きとソルフェージュ	24	楽器遊び(3)	合奏	
	10 音楽と動き(2) リトミック(2) 幼児への指導	25	子どもと楽しむ音楽会(1)	企画立案、役割分担	
	11 音楽と動き(3) わらべうた(1) 幼児の生活に即して	26	子どもと楽しむ音楽会(2)	グループごとの準備、プログラム決定	
	12 音楽と動き(4) わらべうた(2) 幼児の遊びとその発展	27	子どもと楽しむ音楽会(3)	グループごとの準備	
	13 音楽と動き(5) ダンス(1) 拍を意識したステップ	28	子どもと楽しむ音楽会(4)	グループごとの準備、手直し	
	14 音楽と動き(6) ダンス(2) 幼児に適した音楽と動き	29	子どもと楽しむ音楽会(5)	リハーサル	
	15 音楽と動き(7) 音楽遊び	30	子どもと楽しむ音楽会(6)	本番	
授業の留意点	場合によっては動きやすい服装が必要となる。				
学生に対する評価	ペーパーテスト（60点）、日常の課題・実技評価（40点）により評価する。				
教科書（購入必須）	小林美実『こどものうた200』チャイルド社、『たのしいドレミファランド』必要に応じてプリントを配付。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	音楽Ⅱ（ピアノ）				
担 当 教 員 名	会見泉・上田明美・尾崎美千代・鎌塚香代				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	音楽Ⅰでの学修を踏まえ、簡単な楽譜やコードネームを見て、子どもの歌のピアノ伴奏ができる能力を修得する。				
授業の概要	まず、子どもが歌唱する際に楽曲の習熟度に応じてピアノ伴奏ができるよう、コードネームによる伴奏付けを学ぶ。次に、他者のリズムに合わせて演奏できるよう連弾を行う。さらに、個々の演奏技術を高めるためにソロ曲の演奏も行う。				
授業の計画	1	コードネームの基礎(メジャーコード、マイナーコード、セブンス)	16	連弾(1)個人練習(1) 譜読み・補正	
	2	右手メロディーと左手和音(1)C、F、Gを中心に	17	連弾(2)個人練習(2) アゴーギグ、ダイナミクス	
	3	右手メロディーと左手和音(2)G、C、Dを中心に	18	連弾(3) 流れの確認	
	4	右手メロディーと左手和音(3)F、Bb、Cを中心に	19	連弾(4) 総合表現 ダイナミクス、バランス	
	5	右手メロディーと左手和音(4)Am、Dm、E、Em、B、を中心に	20	連弾(5) 総合表現 アゴーギグ、タイミング	
	6	右手メロディーと左手和音(5)Gm、Aを中心に	21	連弾(6) 仕上げ	
	7	右手和音と左手ベース音(1)メジャー	22	連弾発表会 (前半グループの演奏)	
	8	右手和音と左手ベース音(2)マイナー	23	連弾発表会 (後半グループの演奏)	
	9	右手和音と左手ベース音(3)ベース音の動き	24	ソロ曲練習(1) 譜読み	
	10	右手和音と左手ベース音(4)ディミニッシュ、オーギュメント	25	ソロ曲練習(2) 譜読みの補正	
	11	右手和音と左手ベース音(5)メジャーセブンス	26	ソロ曲練習(3) 譜読みの補正、ダイナミクス	
	12	右手和音と左手ベース音(6)サスペンデイド	27	ソロ曲練習(4) 譜読みの補正、アゴーギグ	
	13	右手和音と左手ベース音(7)歌唱伴奏	28	ソロ曲練習(5) 総合表現、暗譜	
	14	伴奏付け発表会 (前半グループの演奏)	29	ソロ曲練習(6) 総合表現、暗譜の補正	
	15	伴奏付け発表会 (後半グループの演奏)	30	ソロ曲練習(7) 仕上げ	
授業の留意点	グループ単位での個人レッスンを基本的な授業形態とするため、特に欠席・遅刻等についての連絡を怠らないこと。				
学生に対する評価	前期に行う伴奏付け発表会（20点）、後期に行う連弾発表会（20点）およびソロ発表会（20点）の演奏、および日常の課題への取り組み（40点）による。				
教科書（購入必須）	『新版 たのしいドレミファ・ランド』教育芸術社 大学音楽教育研究グループ編『歌唱教材伴奏法』教育芸術社				
参考書（購入任意）					

科 目 名	音楽Ⅱ（ギター）																													
担当教員名	松本 敏正																													
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習																									
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択																									
実務経験及び授業内容																														
学習到達目標	音楽Ⅰでの学修を踏まえ、アコースティックギターを用いて子どもの歌の伴奏ができる技術的能力を修得する。																													
授業の概要	演奏しながら子どもたちの輪の中を自由に移動できるギターは、保育現場で子どもが歌う際の伴奏楽器として、大きな利点がある。また、自由性の高い演奏が可能な点から、子どもたちの創造性、コミュニケーション力を育む効果が期待出来る。この授業では、アコースティックギターによる伴奏法を学ぶ。左手でコードをおさえ、右手でストロークやアルペジオ、スリーフィンガーなどの奏法を用いて演奏できるようにし、最終的には弾き語りしながら歌うことが出来るように、段階を踏んで演奏技術の向上を目指す。																													
授業の計画	1 アコースティックギターに必要な基礎知識、チューニングの仕方について	2 コードネーム、ダイアグラムの基礎、基礎練習クロマチック練習	3 主要コードの押さえ方（C、G、D）	4 主要コードの押さえ方（Bm、Em、Am）、押さえ方の練習	5 コードチェンジのコツ、ストローク練習	6 弦交換の仕方から、実践まで	7 主要コードの応用（セブンスコード）	8 セブンスコードを使用した童謡曲	9 バレーコード（F、Bなどを中心に）	10 主要コードの応用（add9th、sus4）	11 ミュート、カッティングについて	12 様々な応用テクニック（ハンマリングオン、プリングオフ、スライド）	13 ストロークで伴奏しながら歌唱練習	14 ソロ曲発表会（前半）	15 ソロ曲発表会（後半）	16 前期ストローク曲の総復習	17 アルペジオ演奏の基礎	18 様々なアルペジオのパターン	19 アルペジオで伴奏しながら歌唱練習	20 課題曲練習	21 ストローク、アルペジオを組み合わせた弾き方	22 ストローク、アルペジオを応用した様々な曲の練習	23 グループ分け、曲決め	24 グループ発表練習①	25 グループ発表練習②	26 グループ発表練習③	27 グループ発表仕上げ（表現の仕方、弾き方等）	28 グループ発表会（前半）	29 グループ発表会（後半）	30 弦交換、メンテナンス
授業の留意点	基本的には、ギターの初学者・初心者を対象とした実技授業である。																													
学生に対する評価	前期に行う伴奏付けソロ発表会（20点）、後期に行うグループ発表会（20点）およびソロ発表会（20点）の演奏、および日常の課題への取り組み（40点）による。																													
教科書（購入必須）	『知識ゼロからのアコースティック・ギター入門（ゴンチチ）』幻冬舎																													
参考書（購入任意）																														

科 目 名	図画工作 I				
担 当 教 員 名	堀川 真				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通して、内面世界の発達と心の理解を指導する科目				
学習到達目標	造形あそびと絵画制作における基礎的な技法を身につけ、豊かな感性を持ち、多様な表現に共感し楽しむことができる。				
授業の概要	造形あそびと絵画指導上の留意点について実作を通して学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 保育における造形分野の役割とかんたん工作 2 絵画制作 (1) 描画の発達と軟筆画 (フロッタージュ) 3 絵画制作 (2) 描画の発達と水彩画 (デカルコマニー) 4 工作 (1) お面、かぶりもの 5 工作 (2) 子どもの日、ハロウィンの仮装 6 工作 (3) ストロー人形 7 工作 (4) 凧、飛行機凧、くるくるヘビ 8 工作 (5) 折紙飛行機、折紙ロケット 9 工作 (6) けん玉、わりばし鉄砲、びゅんびゅんゴマ 10 工作 (7) 紙版画、ステンシル 11 工作 (8) とびだすカード 12 工作 (9) 折紙 13 工作 (10) 音を出してみる 14 工作 (11) 壁面構成 15 まとめ 				
授業の留意点	必要に応じて道具・材料を指示するので準備すること。				
学生に対する評価	授業における取り組みと提出物(70点)、内容(30点)。				
教科書 (購入必須)	特になし				
参考書 (購入任意)	『3・4・5歳児の保育に 作ってあそべる製作ずかん』(学研 今野道裕：著)				

科 目 名	図画工作Ⅱ				
担当教員名	堀川 真				
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実務経験及び授業内容	児童相談所と児童家庭支援センターにおいて児童文化の実務経験を有する教員が、子どもの「造形想像」発展に有効とされる技能・知見について指導する科目				
学習到達目標	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通して、内面世界の発達と心の理解を指導する科目				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「図画工作Ⅰ」での学修を基礎とし、一般的な幼児のための造形技法のみならず、より高度な技法な制作活動を行う。 ・日本の昔話を題材にした人形劇、影絵劇の制作と上演を行い、舞台上における表現力、演出力の向上を目指す。 				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（木工・箸をつくる） 2 窯芸（1） 成形 3 窯芸（2） 焼成 4 仮装（1） 構想と制作 5 仮装（2） 制作と発表会 6 紙版画（1） カレンダー制作・製版 7 紙版画（2） カレンダー制作・印刷 8 人形劇・影絵劇をつくる（1） 構想・脚本の制作 9 人形劇・影絵劇をつくる（2） 役割の分担 10 人形劇・影絵劇をつくる（3） 人形をつくる 11 人形劇・影絵劇をつくる（4） 背景をつくる 12 人形劇・影絵劇をつくる（5） 発表準備・人形操作および光の理解と工夫 13 人形劇・影絵劇をつくる（6） 発表準備・人形操作および光の工夫と修正 14 人形劇・影絵劇をつくる（7） 発表会 15 まとめ 				
授業の留意点	必要に応じて道具・材料を指示するので準備すること。				
学生に対する評価	授業における取り組みと提出物(70点)、内容(30点)。				
教科書（購入必須）	必要に応じてその都度、プリントを配付する。				
参考書（購入任意）	特になし。				

科 目 名	体育				
担 当 教 員 名	三井 登				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	体育に関する保育内容を理解し、子どもの運動遊びを豊かに展開するために必要な知識・技術を習得する。				
授 業 の 概 要	子どもの発達と運動機能の関係や身体に関する知識技術について学ぶ。地域の環境を生かした運動遊びの指導法、様々な遊具、用具、素材等の特性を生かした教材研究に基づく運動遊びの指導法を学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 子どもの発達と運動機能 運動機能の系統的発達 欲求と運動 3 子どもの身体発達と食 4 食育を通じた身体づくり実践の事例紹介 5 生活リズムの構築と運動指導 6 教材研究の視点 運動遊びの系統的指導 理論的根拠 7 教材研究(1) 道具を使った運動遊び 伝承遊び 8 教材研究(2) 道具を使った運動遊び ボールを使った遊びの指導法 9 教材研究(3) 道具を使った運動遊び 縄跳び遊びの指導法 10 模擬授業(1) 運動遊びの系統的指導 指導計画の作成 11 模擬授業(2) 運動遊びの系統的指導 指導計画の実践 12 環境設定と運動遊び 13 環境に働きかける運動遊び 14 運動遊びを導く環境の創造 15 学習のまとめと振り返り 				
授 業 の 留 意 点	模擬授業を含むため、動きやすい服装と靴を用意すること。既往症がある場合は、必ず事前に報告すること。				
学 生 に 対 す る 評 価	提出物70点、実技への取り組み30点により評価する。				
教 科 書 (購入必須)	特になし。その都度、必要な資料を配付する。				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	児童文化				
担 当 教 員 名	堀川 真				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	児童文化を研究している教員が、保育の現場における読み聞かせ等の読書活動やことばあそびの事例等を通して、児童文化の発達と心の理解を指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主な「児童文化」に関する知識と実際を知り、その特性や実践上の留意点について理解する。 ・ 「児童文化」が保育分野に果たす役割を考える中で日本の子ども文化の特性を知る。 ・ 幼稚園・保育所・学校・地域における文化活動の発展の方向を考える。 				
授 業 の 概 要	伝承あそびからおもちゃ・絵本・人形劇・紙芝居・テレビ等まで、児童文化が果たす役割をできるだけ実例提示、実演する中で紹介し、その特性と課題について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 子どもを取り巻く文化状況 2 あそびについて 「あそび」の持つ意味 と集団づくりに役立つ遊び 3 伝承あそびについて 伝承遊びの紹介と実演 4 おもちゃについて おもちゃの役割と特性、手づくりおもちゃ 5 おもちゃについて 郷土玩具、グッドトイの紹介 6 ゲームについて ビデオゲームのはじまりと今日のあり様 7 紙芝居について 発達史と上演の留意点 8 演じるあそびについて ごっこあそび、劇遊び、劇、人形劇 9 昔話について 昔話とは何か、昔話の魅力 10 絵本小史 絵本の歴史と20世紀初頭海外の展開 11 絵本小史 絵本の歴史と日本戦後の展開 12 絵本創作の背景 実作を通してみる課程と配慮 13 読書推進活動を考える 公共図書館と地域家庭文庫 14 テレビ論 児童向けテレビ番組に見る社会との同期性について 15 まとめ 授業の感想と児童文化についての考察・発表 				
授 業 の 留 意 点	講義科目ではあるが、科目の性格上、多少の演習を含む。				
学 生 に 対 す る 価 値	授業における取り組みと提出物(70点)、内容(30点)。				
教 科 書 (購 入 必 須)	その都度必要に応じてプリントを配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	特になし。				

科 目 名	特別な教育的ニーズの理解とその支援				
担 当 教 員 名	安永 啓司				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校幼稚部教員や保育所等へのコーディネーターの経験を話題に討論し指導する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. インクルーシブ保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害等のある子ども及びその保育について理解する。 2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。 3. 障害等のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。 4. 障害等のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 5. 障害等のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。 				
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> (1) インクルーシブ保育を支える理念、 (2) 障害等の理解と保育における発達の援助、 (3) インクルーシブ保育の実際、 (4) 家庭及び関係機関との連携、 (5) 障害等のある子どもの保育にかかわる現状と課題 などについて学び、演習を行う。 				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 障害等の理解と援助①（障害とは何か？） 2 障害等の理解と援助②（特別のニーズと支援） 3 障害等の理解と援助③（特別支援教育の理念、歴史、法制度） 4 障害等の理解と援助④（討論：障害と個性） 5 障害等のある子どもの保育の実際①（療育機関・特別支援学校の現状） 6 障害等のある子どもの保育の実際②（小学校・中学校等の現状） 7 障害等のある子どもの保育の実際③（保育園・幼稚園の現状） 8 障害等のある子どもの保育の実際④（討論：差別について） 9 連携の仕組みと支援計画①（関係機関との連携） 10 連携の仕組みと支援計画②（保護者の支援、保護者との連携） 11 連携の仕組みと支援計画③（個別の支援計画等の作成） 12 連携の仕組みと支援計画④（討論：支援を繋げるために） 13 これからのインクルーシブ保育①（特別支援教育から権利条約まで） 14 これからのインクルーシブ保育②（インクルーシブ保育への可能性） 15 これからのインクルーシブ保育③（討論：インクルージョンの展望と課題） 				
授業の留意点	演習科目であり、積極的な発言等を求めます。				
学生に対する評価	リアクションペーパー30点、レポート70点で評価する。				
教科書（購入必須）	橋本創一・渡邊貴裕・林安紀子・久見瀬明日香・工藤傑史・大伴潔・安永啓司・田口悦津子編 『知的・発達障害のある子のための「インクルーシブ保育」実践プログラム』 福村出版 2012年				
参考書（購入任意）	梅永雄二、島田博祐、森下由規子編著『みんなで考える特別支援教育』北樹出版 2019 橋本創一、三浦巧也、渡邊貴裕、尾高邦生、堂山亜希、熊谷 亮、田口禎子、大伴 潔編著『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』福村出版 2020年				

科 目 名	障がい児福祉				
担当教員名	大友 愛美				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	発達障がいを正しく理解することで、合理的配慮の具体的な方法をイメージできるようになる。				
授 業 の 概 要	障がいの考え方を学んだうえで、実践現場で行われている具体的な支援方法を知る。実践場面の映像（動画や写真）を使いながら、アセスメントや支援の組み立てなど、より実際の支援について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 発達支援の実際—福祉的な援助の視点とは— 2 障がいの概念—ICFの理解—（社会モデルの視点） 3 ASD（自閉スペクトラム症）を正しく理解する（自閉症の世界を体験する） 4 ASD の子どもたちとのかかわり方1（行動特性と認知特性を理解する） 5 ASD の子どもたちとのかかわり方2（コミュニケーション支援の方法） 6 ASD の子どもたちとのかかわり方3（アセスメントの実際） 7 ASD の子どもたちとのかかわり方4（課題分析と支援の実際） 8 ASD の子どもたちとのかかわり方5（支援の修正と自立支援） 9 ASD の子どもたちとのかかわり方6（自立支援と社会のルール） 10 ASD の子どもたちとのかかわり方7（知的障がいのないASDの子どもへの支援） 11 LD の子どもたちへのかかわり方（LDと学習機会の保障） 12 ABAとABC機能分析（行動に意味があることを知る） 13 ADHDの子どもたちへのかかわり方（発達障がいと二次障害） 14 地域サービスと家族支援（家族支援の必要性） 15 特性理解を広めるために（福祉と教育と医療そして家族の連携） 				
授 業 の 留 意 点	数コマ続きの内容を含む演習科目のため、欠席のないよう留意すること。				
学 生 対 する 評 価	レポート（70点）および授業後の小レポート（30点）				
教 科 書 （購入必須）	その都度必要に応じてプリントを配布する。				
参 考 書 （購入任意）	<p>テンプレート・グランディン／リチャードバネク著『自閉症の脳を読み解く』2014年NHK出版 トーマス・E・ブラウン著『ADHD 集中できない脳をもつ人達の本当の困難』2010年診断と治療社</p>				

科 目 名	障害児支援の基礎理論				
担 当 教 員 名	藤川 雅人				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	障害者の権利に関する条約批准に伴い、福祉や教育を含む大きな時代的転換が訪れている。特殊教育から特別支援教育へ、障害児教育も大きく変わりつつある。わが国が築きあげてきた障害児教育の歴史を概観し、先達の理念と努力を学ぶことを通して、その意義及び目的と継承すべき視点について深く理解する。併せて、障害児教育を学ぶスタートラインとして、職業的自覚や今後の学びの意味を理解し、高いキャリア意識を醸成する。				
授業の概要	特別支援教育がめざしている社会の理解、発達障害のある幼児児童生徒についての理解と支援方法を学ぶ。障害の有無にかかわらず幼児児童生徒一人一人の特性に応じた支援について考えることを通して、障害児教育の担い手として必要な知識や技術の概要を知り、今後の学習計画の基盤とする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 特殊教育から特別支援教育への転換の経緯 2 特別支援教育の理念とインクルーシブ教育システムが指すもの 3 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援(1) LD、ADHD 4 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援(2) 自閉症スペクトラム障害 5 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援(3) 診断のない幼児児童生徒 6 幼児児童生徒の行動の理解と対応(1) コミュニケーション 7 幼児児童生徒の行動の理解と対応(2) 不適切な行動 8 特別支援学級、通級による指導の教育課程 9 特別支援学校の教育課程 10 就学に向けた相談支援体制と福祉制度 11 特別支援教育コーディネーターの役割と校内支援体制 12 家庭や地域と連携した支援体制の構築 13 関係機関と連携した支援体制の構築 14 特別支援学校の教育の実際 15 インクルーシブ教育システムと共生社会 				
授業の留意点					
学生に対する評価	議論や質問に応じる機会の多い授業となるため、授業の参加態度や議論や質問等について、講義時の応答・協議で判断する(30点)。これらの評価と最終試験の結果(70点)と併せて評価する。				
教科書(購入必須)	特別支援教育概論：福村出版				
参考書(購入任意)					

科 目 名	知的障害者の心理・生理・病理				
担 当 教 員 名	奥村 香澄				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	知的障害を理解する上で定型発達について理解し、発達の偏りやアンバランスについて理解できるようにする。知的障害の要因や状態、心理や社会背景などを捉えることで、多様な障害を理解する基盤を形成することを目標とする。				
授 業 の 概 要	定型発達について再確認するとともに、原因に基づいた発達の様態や表象に現れる様々な特徴を、メカニズムとして理解することが求められる。全般的な知識としてではなく、機序や構造を捉えた知的障害の理解を促すようにするため、協議機会を多く持つ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 発達の生理学的基礎 身体、脳、原初期の反応、社会的相互作用、学習 2 知的障害の定義 障害の認定と教育 3 知的障害の分類と障害の要因 知的障害の発生機序、学習や行動の特徴 4 社会的に増悪する知的障害 社会的相互作用、評価 5 遺伝の仕組みと異常 遺伝形質、先天性、後天性、内因、外因 6 脳機能の発達 定型発達児の発達 7 脳機能の障害 認知、脳波、脳血流量、認知神経心理学、生理心理学 8 知的障害児の学習特性 ステレオタイプ、固執性、学習された無気力 9 脳機能障害児の運動特性 操作、協調性運動発達障害 10 知的障害児の言語発達 他者意図理解、共同注意、自閉症 11 知的障害児の社会性の発達 経験、学習 12 知的障害児の行動問題の理解と支援 自傷行動、他害行動、応用行動分析 13 ダウン症候群 染色体異常、行動特性、学習特性 14 Williams 症候群 染色体異常、行動特性、学習特性 15 その他の染色体異常 コーネリア・デ・ランゲ、フェニールケトン尿症、レット症候群、ソトス症候群 				
授 業 の 留 意 点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学 生 に 対 する 評 価	講義における小レポート（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。				
教 科 書 (購入必須)					
参 考 書 (購入任意)	特別支援教育における障害の理解：教育出版				

科 目 名	肢体不自由者の心理・生理・病理				
担 当 教 員 名	藤川雅人・田中肇				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>肢体不自由とは、四肢体幹に永続的な機能障害があり、姿勢や運動動作に制限がある状態のことをいう。その発生原因となる疾病は多様である。それぞれの疾病に応じた特性をテーマにし、それらについての基本的な理解を得ることを目標とする。</p>				
授業の概要	<p>肢体不自由教育の対象となる主な疾患の病理・生理及び心理について学ぶ。また、認知・社会・コミュニケーション・心理などの特性について理解しながら、その支援について学習する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 肢体不自由とは 肢体不自由の状態、療育、教育 2 姿勢と運動の発達(1) 運動の機序と障害 3 姿勢と運動の発達(2) 運動操作における障害と心身の発達 4 脳性麻痺の病態 5 脳性まひの支援 就学前期から学歴期の支援 6 神経・筋疾患の病態 ～ 二分脊椎と筋ジストロフィー 7 療育支援の考え方 ～ 生活支援の重要性 8 筋ジストロフィーの支援 学校における支援、家庭における支援 9 その他の肢体不自由 発達性協調運動障害、脳機能障害 10 てんかん てんかんの特性と支援 11 肢体不自由を伴う子どもの心理発達過程とその支援 学齢期を中心に 12 肢体不自由を伴う子どもの心理・認知機能とコミュニケーションの支援 代替機器、心理検査 13 肢体不自由を伴う子どもの社会性及び関係発達 社会との接点、困難 14 肢体不自由を伴う子どもの就学、就学支援 検診、就学相談、移行 15 もう一度、肢体不自由とは 見える困難、見えない困難 				
授業の留意点	<p>ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。</p>				
学生に対する評価	<p>講義中の課題（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等、田中先生のレポートも合わせて評価する。</p>				
教科書（購入必須）	<p>適宜紹介する。</p>				
参考書（購入任意）	<p>新訂肢体不自由児の教育：放送大学教育振興会</p>				

科 目 名	病弱者の心理・生理・病理				
担 当 教 員 名	中澤幸子 下村遼太郎				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・病気の子どもの心理・生理・病理について理解する。 ・具体的な事象や事例から病弱者・障害者の心理特性・行動背景を理解し、当事者や家族への支援方法について考えることができる。 				
授業の概要	病弱教育が対象とする子どもに多くみられる疾患の生理・病理、病気の子どもや家族の心理的特性と求められる心理的支援・配慮について学び、考察します。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション / 授業の進め方等 2 健康、病気、障害の概念 3 小児期の慢性疾患Ⅰ (ぜんそく、アレルギー等) 4 小児期の慢性疾患Ⅱ (腎臓病・心臓病等) 5 小児期の慢性疾患Ⅲ (糖尿病等) 6 悪性腫瘍 (小児がん、脳腫瘍等) 7 進行性筋ジストロフィー 8 てんかん、血友病とその他の疾患 9 心身症、精神疾患 10 病気・障害の受容とセルフケア 11 病弱者・障害者の心理的特性 12 病弱者・障害者と家族の支援 13 教育・医療・保健・福祉等多職種による連携 14 病弱者の支援における今日的課題 15 まとめ / 病弱者の支援で大切なこと 				
授業の留意点	<p>特別支援学校教員免許取得に関わる講義であることから、他の障害（知的障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、発達障害等）についても理解を深めておくことが望ましい。</p> <p>3～9 下村遼太郎 担当授業 / 1～2、10～15 中澤幸子 担当授業</p>				
学生に対する評価	授業振り返りシート及び課題への取り組みの状況（50点）、レポート（50点）等で総合的に評価します。				
教科書（購入必須）	適宜、資料・視聴覚教材を使用します。				
参考書（購入任意）	講義内で紹介します。				

科 目 名	知的障害者教育課程論				
担 当 教 員 名	安永 啓司				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校 3 校で 33 年間教員を務めて得た教育内容や仕組みを体系的に指導する科目				
学習到達目標	「特殊教育」から現在の「特別支援教育」に至る過程を理解しながら、今後の展望を見通すことを目的とする。特別支援教育の理念を十分に理解しながら、障害特性に応じた教育の計画と評価を可能とするために、国によって定められる「学習指導要領」に基づいて、各学校で編成される教育課程の意義と立案の際の留意点等について理解をしていく。				
授業の概要	知的障害を中心とする教育について、教育史、教育の目的及び教育形態の概要と、学校が教育的活動を計画し、実践する際のよりどころとなる教育課程の概要を理解する。 あわせて、近年のノーマライゼーションやインクルージョンの潮流に基づいた、制度・教育的変遷の意義と課題を概観する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 知的障害とは（イントロダクション） 認知、学習、生活、自立 2 障害児教育の概要(1) 東京学芸大学附属特別支援学校の教育の実際 3 障害児教育の概要(2) 特別支援学級の教育の実際 4 障害児教育の対象の拡大と教育の本質的課題 「生きる力」を中心に 5 障害児教育の教育形態（特別支援学校、特別支援学級、通級学級、特別支援教室） 6 教育課程の概念と原理 国による法令と基準 7 学習指導要領改訂の変遷と意義 社会背景と教育内容の整備 8 教育課程の開発と編成 個別的教育支援計画、個別の指導計画 9 各教科の指導 生活科、かず・ことば 10 領域の指導 自立活動 11 各教科等を合わせた指導 生活単元学習、総合的な学習 12 学習指導案の作成の視点 授業改善、授業評価 13 チームティーチングの方法 授業計画、授業反省と教材開発 14 教育制度と法令 学校制度、教科書、学級編制 15 障害児教育の専門性と教師キャリア 地方公務員法、教育公務員特例法、服務、研修 				
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学生に対する評価	講義における小レポート（30 点）、最終試験結果（70 点）により評価する。				
教科書（購入必須）	橋本創一他編著『特別支援教育の新しいステージ：5 つの I（アイ）で始まる知的障害児教育の実践・研究』福村出版 2019				
参考書（購入任意）	橋本創一、三浦巧也、渡邊貴裕、尾高邦生、堂山亞希、熊谷 亮、田口禎子、大伴 潔編著『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』福村出版 2020 年 特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）				

科 目 名	知的障害者教育方法論				
担 当 教 員 名	安永 啓司				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校3校で33年間教員を務めて得た教育内容や仕組みを体系的に指導する科目				
学習到達目標	知的障害を中心とする教育において、発達の諸相と障害特性についての理解を深め、効果的な指導方法を導き、その効果を評価－改善していくプロセス（Plan-Do-See）の意義と具体的な指導について理解を深める。				
授業の概要	知的障害のある子どもの生活や学習における困難さやニーズを理解し、適切に支援するための方法論として応用行動分析学の基本的理論や原理を中心に、それらを活用するための個別の指導計画の仕組みや授業や教材の工夫について学修する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 知的障害のある子どもの理解と教育 2 行動観察とアセスメント 3 応用行動分析学に基づく支援（1）行動分析の理論 4 応用行動分析学に基づく支援（2）行動の形成と強化 5 応用行動分析学に基づく支援（3）課題分析と連鎖化 6 応用行動分析学に基づく支援（4）問題行動と機能分析 7 応用行動分析学に基づく支援（5）社会的強化と言語行動 8 応用行動分析学に基づく支援（6）積極的行動支援 9 自立活動と個別の指導計画の作成（1） 10 自立活動と個別の指導計画の作成（2） 11 授業の工夫と改善（1）各教科の指導 12 授業の工夫と改善（2）各教科等を合わせた指導 13 自閉症のある人の事例で学ぶ 14 ダウン症のある人の事例で学ぶ 15 知的障害のある人の自立と社会参加とは（まとめ） 				
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学生に対する評価	毎回の講義における小レポート（30点）と期末レポート課題の結果（70点）により評価する。				
教科書（購入必須）	橋本創一他編著『特別支援教育の新しいステージ：5つのI（アイ）で始まる知的障害児教育の実践・研究』福村出版 2019				
参考書（購入任意）	特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）				

科 目 名	肢体不自由者教育課程論				
担 当 教 員 名	藤川 雅人				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校（肢体不自由）教諭の経験を有する教員が、肢体不自由教育の教育内容や方法、教育課程の基本について指導する科目				
学習到達目標	肢体不自由児の障害特性を理解し、肢体不自由教育の教育内容・方法を学び、教育課程の基本について理解する。肢体不自由教育の授業づくりの基本的視点を理解し、教育実践の基盤を形成することを目標とする。				
授業の概要	肢体不自由児の障害の基礎的な特徴を概説し、肢体不自由教育の教育課程、指導方法について実践例を交えた教育を行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 肢体不自由の定義 障害認定と教育 2 肢体不自由教育の現状 特別支援学校、特別支援学級、通常の学級 3 肢体不自由教育のあゆみ 肢体不自由教育の歴史 4 発達と障害の基礎理解 乳児期の反射、学習、経験 5 脳性まひの発達と障害の基礎的理解 障害特性と支援 6 肢体不自由の教育課程(1) 特別支援学校における教育課程 7 肢体不自由の教育課程(2) 自立活動① 8 肢体不自由の教育課程(3) 自立活動② 9 肢体不自由の教育課程(4) 小・中学校における教育課程 10 重度・重複障害の教育実践(1) 授業の実際① 11 重度・重複障害の教育実践(2) 授業の実際② 12 重度・重複障害の教育実践(3) 医療的ケア 13 肢体不自由児と家族の生活実態と支援 障害に基づく困難 14 肢体不自由教育の今日的課題 障害の重度・重複化、多様化 15 学習指導案と授業 授業研究の視点、改善のプロセス 				
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学生に対する評価	リアクションペーパー（30点）、期末レポート（70点）により評価する。				
教科書（購入必須）	特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）				
参考書（購入任意）	新訂肢体不自由児の教育：放送大学教育振興会				

科 目 名	肢体不自由者教育方法論				
担 当 教 員 名	藤川 雅人				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校（肢体不自由）教諭の経験を有する教員が、肢体不自由児の実態把握、指導や支援、授業実践について指導する科目				
学習到達目標	肢体不自由教育は、一人一人の子どもの運動障害の程度や知的発達に応じて、複数の教育課程が用意されている。本講義では、肢体不自由児の事例を通して、指導内容・指導方法及び授業実践の理解を深めることを目標とする。				
授業の概要	肢体不自由の単一障害や、二分脊椎、脊椎損傷等の知的障害を伴わない教育から、知的障害を伴う重複障害の子どもを対象とした教育まで含めて、肢体不自由児の実態把握や指導内容・方法を考える。実際の授業を行う上で必要とされる基礎的な理解を形成する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨN 授業の進め方、学習マップ 2 肢体不自由教育の概要(1) 特別支援学校の教育の実際 3 肢体不自由教育の概要(2) 特別支援学級の教育の実際 4 肢体不自由児の実態把握 身体面、心理面、学習面 5 教育課程の開発と編成(1) 個別の教育支援計画 6 教育課程の開発と編成(2) 個別の指導計画 7 各教科の指導(1) 学習支援の方法、ICT機器の活用 8 各教科の指導(2) 指導の工夫と留意点 9 自立活動の指導 6区分27項目 10 各教科等を合わせた指導(1) 日常生活の指導、遊びの指導 11 各教科等を合わせた指導(2) 生活単元学習、作業学習 12 学習指導案の作成の視点(1) 授業評価 13 学習指導案の作成の視点(2) 授業改善 14 授業研究 反省協議、学習指導案への反映 15 肢体不自由教育のまとめ 				
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学生に対する評価	リアクションペーパー（30点）、期末レポート（70点）により評価する。				
教科書（購入必須）	特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）				
参考書（購入任意）	新訂肢体不自由児の教育：放送大学教育振興会				

科目名	病弱者教育論				
担当教員名	担当者未定				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	病弱者教育の歴史と意義について理解し、病弱者教育の対象者に応じた教育の特徴について概要を把握するとともに病弱者教育の現代的課題について見通すことを目的とする。				
授業の概要	病弱者教育の歴史から病弱者教育が果たしてきた役割について学び、病弱者教育の意義と課題について学ぶ。病弱者教育の対象である主な疾患とその特徴、教育を行うに当たって配慮すべきことを考察する。病弱者教育の現代的課題や病類に応じた教育の特徴について学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODakション 授業の進め方、学習マップ 1 2 病弱者教育の歴史の変遷と定義 療育から教育へ 3 病弱者教育の意義と目的 学ぶ権利の保障、教育課程の整備 4 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(1) 呼吸器疾患、内分泌疾患 5 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(2) 腎・泌尿器疾患 6 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(3) 心疾患、筋疾患 7 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(4) 重症心身障害 8 死について考える ターミナル期にある子どもの教育 9 自分自身を振り返る 命の選択 10 病気とともに生きるということ グループワークの協議を通して 11 拡大する病弱者教育の対象 不登校、被虐待、ネグレクト、精神疾患 12 病弱者教育の設置基準と教育の場 特別支援学校、学級、院内学級 13 病状に合わせた指導計画 集団の形成、授業時数の設定 14 医療機関と教育の関係と連携、家庭との連携 連携のあり方、連絡帳、病状ノート 15 病弱者教育の現代的課題 医療の高度化、病気の多様化 				
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学生に対する評価	講義中の協議課題（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）により評価する。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）	病気の子どもの教育入門：クリエイツかもがわ 特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編） 特別支援教育の指導法：教育出版				

科 目 名	視覚障害者教育総論				
担 当 教 員 名	星 祐子				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	視覚障害の概要を生理・病理の観点から理解し、視覚障害教育の歴史・教育課程・指導内容・指導方法などについて学び、視覚障害教育に関する知識を習得するとともに共生社会形成の基礎となる特別支援教育に対する理解を深めることを目的とする。				
授業の概要	本講義では、主として視覚障害教育に関する以下の内容について、テキスト、プリント資料、映像教材、実物教材を使用しながら授業を行う。 1. 視覚障害の概要（生理・病理）及び視覚管理 2. 視覚障害教育の歴史及び制度 3. 視覚障害教育の教育課程及び指導計画 4. 視覚障害教育の指導内容・指導方法				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 視覚障害の生理及び病理と視覚管理① 視覚障害の定義、視覚器の構造と視覚障害 2 視覚障害の生理及び病理と視覚管理② 視機能と視覚障害、眼疾患と教育的配慮 3 視覚障害の心理特性、発達を規定する要因と発達の特徴、アセスメント、観察評価 4 視覚障害教育の歴史と制度、交流及び共同学習 5 教育課程と指導計画① 教育課程の意義、教育課程の編成と指導計画の作成 6 教育課程と指導計画② 学習指導要領 7 指導内容及び指導方法① 視覚障害教育における指導上の配慮事項、盲児の触知覚の特性、点字の読み書きの指導、空間概念の指導、歩行指導、言葉と事物・事象の対応の指導 8 指導内容及び指導方法② 弱視児の視知覚の特性 重複障害児の指導、教材教具 				
授業の留意点	視覚障害の疑似体験や演習なども行うため、積極的に講義に参加すること。				
学生に対する評価	提示課題の取り組み状況（30点）、レポート課題（70点）により評価する。				
教科書（購入必須）	適宜、プリントを配布する。				
参考書（購入任意）	視覚障害教育入門 ジアース教育新社 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）				

科 目 名	聴覚障害者教育総論				
担 当 教 員 名	庄司 和史				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	聴覚障害の概要を生理・病理の観点から理解し、聴覚障害教育の歴史・教育課程・指導方法・評価法などについて学び、聴覚障害教育に関する知識を習得するとともに、発達期における心理的特性や保護者の心情などを理解することを目標とする。				
授 業 の 概 要	聴覚障害は、単に聞こえの障害のみならず様々な学習経験や発達上の困難が生じる。補聴器などの装用に対する心理的な抵抗が生じる場合もある。聞こえの障害を多角的に捉えて、他者を深く理解する基盤を培うことができるように、体験や協議を多くした講義としていく。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 聴覚障害の生理及び病理① 聴覚障害の定義、聴覚の構造と障害 2 聴覚障害の生理及び病理② 聴覚機能と聴覚障害、疾患と教育的配慮 3 聴覚障害の心理特性と発達 コミュニケーション、社会性、学習 4 聴性脳幹反応と人工内耳 心理的支援、保護者支援、早期介入 5 聴覚障害教育の歴史と制度 聾唖学校、ろう学校、口話、手話 6 聴覚障害教育における教育課程と指導計画① 各教科の指導 7 聴覚障害教育における教育課程と指導計画② 各領域の指導、自立活動 8 授業の実際 「個別の指導計画」、学習指導案 				
授 業 の 留 意 点	聴覚障害体験なども行うため、積極的に講義に参加すること。				
学 生 に 対 す る 評 価	講義における小レポート（20点）、提示課題の取り組み状況（20点）、レポート課題（60点）により評価する。				
教 科 書 （購入必須）					
参 考 書 （購入任意）	教育オーディオロジーハンドブック：ジアース教育新社 特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編） 特別支援教育の指導法：教育出版				

科 目 名	重複障害・発達障害の評価				
担当教員名	奥村香澄				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・特支：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	重複障害と発達障害の困難の状況を理解し、困難のメカニズムと社会的に直面する事態との関係を理解する。重複障害と発達障害の正しい理解のもとに、詳細なアセスメントの方法と解釈について、演習を中心として理解する。				
授 業 の 概 要	現代の特別支援教育においては、一方で障害の重度化や重複化を、もう一方では発達障害等の知的障害を伴わない子どもたちの存在を支援していく必要に迫られている。そこでは障害の理解に基づいた正確なアセスメントが求められてくる。多様な評価について学び、実際のアセスメントの知識と技術を身につける。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 アセスメントとは 評価、心理、社会、生活 2 アセスメントの方法 観察、解釈、記録、聴き取り、定量的評価、定性的評価 3 重複障害の評価 反応形成、フィードバック 4 医療的数値 脳波、脳血流量、血中酸素、その他の数値 5 心理検査の理解① 認知理論、心理検査の発展過程 6 心理検査の理解② C-H-C 理論、PASS 理論、知能の定義 7 心理検査の理解③ WISC-IV、KABC-II、DN-CAS 8 心理検査の実際① WISC-IV 9 心理検査の実際② DN-CAS と KABC-II 10 心理検査の解釈① WISC-IV 11 心理検査の解釈② DN-CAS と KABC-II 12 心理検査の解釈③ 総合的な解釈、検査レポート、倫理的責任、支援計画 13 保護者支援 障害受容、療育の見通し、家族との調整 14 自立支援 本人受容、将来設計 15 支援の実際 アセスメント、支援計画、介入、コンサルテーション 				
授 業 の 留 意 点	実際の心理検査などを行うため、グループワークの際は欠席などの無いようにすること。				
学 生 対 する 評 価	講義における小レポート（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。				
教 科 書 （購入必須）					
参 考 書 （購入任意）	特別支援教育における障害の理解：教育出版				

科 目 名	重複障害・発達障害の教育				
担 当 教 員 名	奥村香澄				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	重複障害と発達障害の困難の状況を理解し、困難のメカニズムと社会的に直面する事態とを正しく把握することができ、適正な支援の方法と障害のある幼児、児童、生徒の社会的自立の見通しを立てることができるようにする。				
授業の概要	現代の特別支援教育においては、一方で障害の重度化や重複化を、もう一方では発達障害等の知的障害を伴わない子どもたちの存在を支援していく必要に迫られている。障害の重複を具体的に捉え、自己決定を保障する方法を学ぶと共に、6.5%といわれる発達障害の概要を理解し、多様なニーズに応えられる知識と技能を身につける。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 重複障害とは 障害の重複、困難の重複、複合的な相互作用 2 重複障害の教育 教育課程、指導法 3 重複障害の予後 施設、病院、家庭、社会参加 4 発達障害とは LD、注意欠如/多動症(AD/HD)、自閉スペクトラム症 5 発達障害の困難 聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する、コミュニケーション 6 発達障害の教育 通常学級、通級による指導、適応教室、不登校 7 発達障害の教育課程における位置づけ 特別支援教育 8 学習やコミュニケーションの困難の機序 感覚、知覚、認知 9 LD の指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン、2次障害 10 AD/HD の指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン、2次障害 11 自閉症スペクトラムの指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン、2次障害、アスペルガー症候群 12 発達障害の社会的自立 障害認定、適応 13 社会における発達障害 定義、啓発、受容 14 発達障害に関わる制度の変遷 教育、福祉、就労 15 重複障害・発達障害のまとめ 自己認識、社会的相互作用、社会的背景 				
授業の留意点	実際の発達障害支援の実務者の活動を取り混ぜる予定である。				
学生に対する評価	講義における小レポート（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）	特別支援教育における障害の理解：教育出版				

科 目 名	障害児教育実習事前事後指導				
担 当 教 員 名	安永啓司・奥村香澄・藤川雅人				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	国立大学附属特別支援学校 3 校での教育実習生への指導経験を有する教員が、その知識と経験を生かした演習を主とし展開する科目				
学習到達目標	実習の意義と目的、実際の幼児・児童・生徒の実態把握の方法、指導計画の作成と指導案作成及び模擬授業を行い、それぞれの実習時期に合わせながら、全体及び個別指導を行う。事後指導においては、再度、教職の意義、教育公務員特例法の意義と教員の義務、キャリア形成等について復習し教職に対する心構えを確認する。				
授業の概要	特別支援教育に特有のアセスメントなどを再度確認の上、指導計画の作成を通じて障害児教育実習への準備を行う。実習後は授業研究などを通じて、実際の実習の振り返りと教職の意義の確認を行う。				
授業の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別支援と集団による授業における指導計画のたてかた ・ 実態把握のための観察法 ・ 個別のアセスメント ・ 個別指導の方法と集団のダイナミズムの活用方法 ・ 年間指導計画の策定 ・ 個別の指導計画の作成 ・ 教科・領域の指導計画 ・ 学習指導案の作成 ・ 指導意図に基づいた教材の意義の確認と準備 ・ 模擬授業 ・ 授業研究会 ・ 計画の修正と確認 				
授業の留意点	相互模擬授業などを行うため、原則として欠席は認めない。				
学生に対する評価	模擬授業・指導計画作成・実習報告などを総合的に評価する。				
教科書 (購入必須)					
参考書 (購入任意)					

科 目 名	障害児教育実習				
担 当 教 員 名	安永啓司・藤川雅人・奥村香澄				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	国立大学附属特別支援学校3校での教育実習生への指導経験を生かした指導による科目				
学習到達目標	特別支援学校における実習を通じて、それぞれの障害領域に対応した指導力及び、校内・校外におけるコーディネート能力など教員としてふさわしい能力を身につける。				
授業の概要	各支援学校において、指導案の作成、研究授業などを行う。				
授業の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該障害種における教育の概要（講義及び見学、活動参加実習）と教員の専門性及び服務 ・ 幼稚部から高等部及び専攻科を通じた、教育の一貫性と自立支援の実際（講義及び見学） ・ 各教科・領域の授業参観 ・ 配属学級における学級経営の視点と方法 ・ 幼児、児童、生徒の実態の把握 ・ 個別の指導計画と学級経営を元にした指導計画の作成 ・ 各教科・領域の指導計画の作成 ・ 実習授業 ・ 研究授業 ・ 実習のまとめ 				
授業の留意点	実習の所定時間はすべて出席が求められるため、実習中の欠席は認められないので注意すること。				
学生に対する評価	学習指導、生活指導、実習態度について、実習校担当者が評価し、事前・事後指導の評価と総合して評価する。				
教科書 （購入必須）					
参考書 （購入任意）					

科 目 名	保育指導論演習				
担当教員名	棚橋 裕子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：選択
実務経験及び授業内容	幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、保育指導論での学びを基底に実際の保育記録（映像、画像、保育記録等）の検討を行い、幼児理解と実践的なスキルの向上をねらう。また、アクティブラーニング型の授業展開から協同的な作業と理解を通して課題解決に向かう過程について学ぶとともに、チームとしての動きについての意識を育てる科目				
学習到達目標	1. 「保育指導論」での学修を踏まえ、子どもの発達を促す教育方法について実践的な力量を身につける。 2. 子どもの実態に即した適切な指導・援助のあるべき方法について、事例を通して自ら考えられる力量を身につける。				
授業の概要	保育指導論で学んだ知識をさらに深めるための講義を受けた上で、いくつかの事例について、グループワークやディスカッションを通して、その理解を確かなものにする。討議にあたっては、根拠・基準が何であるかを明確にしてその実践が優れた指導方法であるかどうかを判断する。これを踏まえた集団的討議は、反省的保育者あるいは実践的研究者となる礎を築くものであり、保育者に求められる協働性を培うことにもつながる。 また、幼児教育のカリキュラムデザインについて、討議や演習を通し実践的な理解を深める。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：授業概要と授業の受け方 2 発達観と教育方法の理論について（1）：講義 3 発達観と教育方法の理論について（2）：グループ討論 4 発達観と教育方法の理論について（3）：全体討論 5 環境を通しての教育について（1）：事例についてのグループ討論 6 環境を通しての教育について（2）：事例についての全体討論 7 領域「表現」と「言葉」を中心にした教育の方法について（1）：事例についてのグループ討論 8 領域「人間関係」を中心にした教育の方法について（1）：事例についてのグループ討論 9 領域「人間関係」を中心にした教育の方法について（2）：事例についての全体討論 10 行事の考え方と教育の方法について（1）：講義 11 行事の考え方と教育の方法について（2）：事例についてのグループ討論 12 行事の考え方と教育の方法について（3）：事例についての全体討論 13 当番活動の指導について（1）：事例についてのグループ討論 14 当番活動の指導について（2）：事例についての全体討論 15 まとめ 				
授業の留意点	保育指導論の内容の振り返りを行うため、あらかじめ復習を行うこと。 グループ討論について積極的な発言が求められる。				
学生に対する評価	授業内レポート20点、期末レポート60点、授業態度（20点）により評価する。				
教科書（購入必須）	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーバル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーバル館				
参考書（購入任意）	授業において資料を配付				

科 目 名	家庭支援実践演習				
担 当 教 員 名	傳馬 淳一郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	保育士や学童保育での保育経験を持つ教員が、家庭支援について指導し、実際に子育て支援センターでの演習を通して、子育て支援の役割、方法について学ぶ科目				
学 習 到 達 目 標	(1) 子育て家庭を取り巻く社会的状況を理解する。 (2) 子育ての実際に触れながら、保育士による子育て支援を理解する。 (3) 地域のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携の実際を学ぶ。 (4) 地域子育て支援センターなど家庭支援の実際に触れながら、保育士の役割と専門性について学ぶ。				
授 業 の 概 要	家庭支援は保育所のみが行うものではなく、地域には様々な取り組みがある。保育士は、時にそれらをコーディネートする役割をもつ。この講義では、フィールドワークを行い、名寄地域での取り組みから家庭支援のあり方を実践的に学ぶ。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 名寄市における子育て支援の実際 3 家庭支援の実際と保育士の役割 4 演習：フィールドワーク (1) 子育て支援センターの実際、保育士の役割を知る 5 演習：フィールドワーク (2) 親子の実際を知る～振り返り 6 演習の振り返り～子育て家庭の実際と子育て支援センターの実際～ 7 演習に向けての事前指導 8 演習に向けての準備①フィールドワークの振り返りと課題整理 9 演習に向けての準備②計画の立案と準備 10 演習：フィールドワーク (3) 環境設定 11 演習：フィールドワーク (4) 保護者とのコミュニケーションを目指して～振り返り 12 演習：フィールドワーク (5) 保護者との関係づくり 13 演習：フィールドワーク (6) 子育て支援をイメージしたかわり～振り返り 14 演習の振り返り～家庭支援における保育士の役割と専門性～ 15 まとめ				
授 業 の 留 意 点	講義、演習、実習を含め主体的に参加することを求めます。現場（主に地域子育て支援センター）での演習を行うため、日程の調整があります。				
学 生 に 対 す る 評 価	演習後の日誌（振り返り）提出（20点×3回）を主な評価として、期末レポート（40点）と共に総合的に評価する。				
教 科 書 （購入必須）	井村圭壯・相澤譲治編著『保育と家庭支援論』学文社 ※子ども家庭支援論と共通				
参 考 書 （購入任意）	中島常安・清水玲子編著『事例から見える 子どもの育ちと保育』同文書院				

科 目 名	地域との協働 I				
担 当 教 員 名	保健福祉学部教員				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	専門職連携の実践者として今後携わっていく上で必要な知識や背景、実践例などについて幅広く学び、自身の職における立ち位置や役割を把握するとともに、地域課題や対象者のニーズに触れながら、連携実践に対する具体的なイメージを高めることを目標とする。				
授 業 の 概 要	<p>全体を 2 クラスに分けた大クラス講義と 1 学年を 6 クラスに分けた中クラス講義、中クラスからさらに少人数に分かれたチームと、展開する場面を回毎に設けて授業を行う。報告会では中クラス、小チーム活動について大クラスで共有をする。全体講義では保健医療福祉連携に必要なグループワーク技術や本学の歴史について学ぶ。クラス講義では学内教員によるゲストスピーカーより各教員の専門性等について紹介を受けた上で、適宜グループワークを行うことで、連携実践において必要な多角的視点を養う。チーム活動では担当教員にリードにより専門的な学習の一端を体験し、多職種理解および多職種連携のイメージを高めることを目指す。</p> <p>COVID-19 感染拡大状況によっては一部または全部を遠隔授業とし、クラス分け・チーム分けを行わず全員が同じ内容の講義・演習を受講する可能性もある。その場合の内容は授業計画内容を網羅したものとする。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・本学の歴史的経緯と保健医療福祉連携（全体講義） 2 グループワーク演習（全体講義） 3 他職種理解・チームケア（クラス講義）その 1 4 他職種理解・チームケア（クラス講義）その 2 5 多種多様な分野の理解（チーム授業）その 1 6 多種多様な分野の理解（チーム授業）その 2 7-8 講義のまとめ（全体講義） 				
授 業 の 留 意 点	<p>クラス・チームごとに関講日や教室が異なるため、各自が出席すべき日時と教室を把握した上で授業に出席すること。クラス講義では、話題提供と併せてグループワークを行う予定である。グループワークの取り組み方をトレーニングするための場でもあるので、一人ひとりが積極的に取り組むこと。</p> <p>遠隔授業となった場合は、オンデマンド授業として行うため受講期限および提出物の提出期限を守ること。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	課題取組状況、提出物、成果発表により評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)					
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	地域との協働Ⅱ				
担 当 教 員 名	保健福祉学部教員				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	通 年	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	幅広い年齢層の地域住民を対象に、栄養・看護・福祉・保育の専門的知識と教養を活用しながら、フィールドあるいは学内で行事または活動を準備・実施し、地域と専門職が機能的に連携・協働するための仕組みについて学ぶ。演習では、自他の役割を自覚し互いに尊重しながら、地域課題や対象者のニーズに応えるための学習を深め、地域と協働して活動することの意義や、専門職連携に対する理解を深めることを目標とする。				
授 業 の 概 要	<p>少人数・学科混成グループを編成し、提示したテーマ別に活動する。演習は、①各種資料の分析や聞き取り調査等を通じて、地域課題や対象者のニーズを検討する、②グループでの役割を分担し、行事等を準備・実施する、③グループワークから得た学びを発表・討議し、専門職連携の意義と効果を全体で共有するという3段階に分けて構成する。指導は担当教員のほか、地域との協働Ⅲを履修する3年生も補助として参加し、活動を円滑に取り組めるよう支援する。</p> <p>COVID-19の感染拡大状況によっては、フィールド活動の回数を制限して実施する予定である。残りの時間は連携教育委員会で開講する全体講義（主としてオンライン講義）をもって充てる予定である。ただし、行動指針レベルにおける地域活動の制限状況に応じて、随時開講形態を変更することがあるので、メール等による連絡を見逃さないよう注意すること。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：担当教員・学生からのテーマ説明、グループ分け 2 グループ別ガイダンス 3 地域課題、対象者のニーズを把握するための調査活動（1） 4 地域課題、対象者のニーズを把握するための調査活動（2） 5 行事・活動等の役割分担 6 行事・活動等の準備（1） 7 行事・活動等の準備（2） 8 行事・活動等の実施（1） 9 行事・活動等の実施（2） 10 行事・活動等の実施（3） 11 行事・活動等の実施（4） 12 行事・活動等の振り返り 13 活動のまとめ、報告会の準備 14 全体報告会（1） 15 全体報告会（2） 				
授 業 の 留 意 点	<p>グループ別演習では、活用するフィールドの都合等により開講日が各グループで異なるため、担当教員およびグループ内との連絡連携を密にして演習に取り組むこと。また、グループに対する責任が生じるため、無断欠席はしないこと。</p> <p>グループごとにCOVID-19に対応したプログラムで実施予定であるが、行動指針レベルにおける地域活動の制限状況に応じて、オンライン講義と地域活動を組み合わせたハイブリッド形式になる可能性がある。オンライン講義に対応できる視聴機材を準備しておくこと。</p>				
学 生 対 する 評 価	受講態度、演習態度、提出物、成果発表等を総合して評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)					
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	地域との協働Ⅲ				
担 当 教 員 名	保健福祉学部教員				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	通 年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	地域との協働Ⅰ・Ⅱでの学びを踏まえ、専門職連携のコーディネーターとして活動するうえで求められるリーダーシップ性、コミュニケーション力、マネジメント力を総合的に高め、フィールド活動に主体的に参加する姿勢を身につけることを目標とする。				
授 業 の 概 要	全体講義でリーダーシップ論、マネジメント論などについて扱うとともに、一部ロールプレイングなどを取り入れて、連携実践をコーディネートするために必要な能力を養成する。途中からは「地域との協働Ⅱ」の活動に参加し、2年生のサポート役として必要な援助を行う。まとめとして、今年度の活動を振り返り、前年度の活動との比較や評価、引き継ぎ事項の確認など、運営側として検討すべき事項を洗い出し、継続的な活動につなげるための方策について検討する。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 専門職連携におけるリーダーシップ（全体講義） 3 専門職連携におけるコミュニケーション（全体講義） 4 専門職連携におけるマネジメント（全体講義） 5-8 フィールド活動の企画立案 9-12 ロールプレイング 13-14 企画したフィールド活動に対する考察 15-16 「地域との協働Ⅱ」にむけての準備 17-29 「地域との協働Ⅱ」のサポート 30 引き継ぎ事項の確認・演習のまとめ				
授 業 の 留 意 点	フィールドの都合等により開講日が各グループで異なるため、担当教員およびグループ内との連絡連携を密にして演習に取り組むこと。また、グループに対する責任が生じるため、無断欠席はしないこと。また、本演習では、地域との協働Ⅱで活動したフィールドとは別のフィールドを選択することも認める（ただし継続参加のみを対象としているグループもあるため要相談）。グループごとに COVID-19 に対応したプログラムで実施予定であるが、行動指針レベルにおける地域活動の制限状況に応じて、オンライン講義と地域活動を組み合わせたハイブリッド形式になる可能性もある。オンライン講義に対応できる視聴機材を準備しておくこと。				
学 生 に 対 す る 評 価	受講態度、演習態度、提出物、成果発表等を総合して評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)					
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	教育実習				
担 当 教 員 名	棚橋裕子・高島裕美				
学 年 配 当	3年	単 位 数	4単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	幼稚園における4週間の実習を通して、現場の幼稚園教諭の指導の下、幼児理解を基底とし、実践力の育成や保育現場での具体的な仕事の内容や保育者の役割について学ぶ。				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園、認定こども園の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して、子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 幼稚園教諭、保育教諭の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 				
授業の概要	実習を通して幼稚園、認定こども園の役割や機能を理解し、直接対象にかかわりながら保育について総合的に学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 幼稚園、認定こども園の役割と機能 (1)幼稚園、認定こども園の生活と一日の流れ (2)幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解と保育の展開 2 子ども理解 (1)子どもの観察とその記録による理解 (2)子どもの発達過程の理解 (3)子どもへの援助やかかわり 3 保育内容・保育環境 (1)保育の計画に基づく保育内容 (2)子どもの発達過程に応じた保育内容 (3)子どもの生活や遊びと保育内容 (4)子どもの健康と安全 4 保育の計画、観察、記録 (1)指導計画の理解と活用 (2)記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての保育者の役割と職業倫理 (1)幼稚園教諭、保育教諭の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携 (3)幼稚園教諭、保育教諭の役割と職業倫理 				
授業の留意点	<p>実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。</p> <p>実習実施に関しては別途「教育実習および保育実習の実施要件」を定めている（実習指導、初回オリエンテーションにて説明）。要件に満たない場合は、実習を実施できない場合があるので注意すること。</p>				
学生に対する評価	実習先での評価表を中心に、実習指導の受講状況、提出物等を加味して総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	テキスト・参考文献は、実習指導を参照				
参考書（購入任意）					

科 目 名	教育実習指導				
担 当 教 員 名	棚橋裕子・高島裕美				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、幼稚園教育の目的や内容、保育者の援助等についての学びを基に、幼児理解、指導計画立案、教材研究等現場において必要な知識と技能を身につける。				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解しし、自らの課題を明確にする。 3. 実習園における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価、の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 				
授業の概要	実習先の決定にいたるまでの手続とその指導、幼稚園の理解、幼稚園教育要領の理解、学外実習の目的および内容の理解、必要な保育技術の習得、学外実習終了後の事後指導をその内容とする。実習終了後に、2・3年合同で実習報告会を行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習の意義と目的 2 教育実習の流れと内容 必要な書類や手続き等のおさえ 3 幼稚園、認定こども園における保育の理解と各要領の関連性 4 様々な事例に基づいた援助の多様性と役割 5 教育実習記録と日誌の書き方 6 保育における指導計画、指導案の位置づけ 7 指導計画、指導案の作成と保育の展開① 8 指導計画、指導案の作成と保育の展開② 9 実習に関する諸手続き 10 直前指導 実習前の確認事項等 11 教育実習後の振り返りと学びのおさえ まとめに向けて 12 教育実習の振り返り① 13 教育実習の振り返り② 14 教育実習報告会① 15 教育実習報告会② 				
授業の留意点	実習指導は、実習と同等に位置付けているため、欠席・遅刻をしないようにする。 なお、実習実施に関しては別途「教育実習および保育実習の実施要件」を定めている（初回オリエンテーションにて説明）。要件に満たない場合は、実習を実施できない場合があるので注意すること。				
学生に対する評価	受講態度、実習への姿勢、提出物等、総合的に判断する。				
教科書 (購入必須)	(保育実習指導・教育実習指導と共通) 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (原本)』チャイルド社 大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『新しい講座 12 保育・教育実習』ミネルヴァ書房 小櫃 智子編著・田中 君枝他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	保育実習 I				
担 当 教 員 名	傳馬淳一郎・宮内俊一				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	4 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容	〔施設実習〕学校現場で社会福祉士（SSW）として従事した教員ならびに児童相談所及び児童養護施設等で臨床経験を持つ教員が、児童福祉施設等の役割や機能を理解し、実践的な学びについて指導する科目〔保育所実習〕保育所での保育経験を持つ教員が指導を行い、保育士としての役割、保育の方法など、実習を通して学ぶ科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等（保育所および保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 				
授業の概要	児童福祉施設等（保育所、居住型児童福祉施設等または障がい児通所施設等）で所定の期間実習を行う。児童福祉施設等の役割や機能、子どもの理解、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。職員間の役割と連携について学ぶ。記録を通じて省察し、自己評価する。子ども家庭福祉や社会的養護の理解を深める。				
授業の計画	<p><保育所実習></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育所の役割と機能（保育所保育士指針の理解と保育の展開） 2 子ども理解（1）子どもの観察とその記録による理解（2）子どもの発達の理解と援助 3 保育内容・保育環境（1）保育の計画に基づく保育内容（2）子どもの発達過程に応じた保育内容（3）子どもの生活や遊びと保育内容（4）子どもの健康と安全 4 保育の計画、観察、記録（1）保育課程と指導計画の理解と活用（2）記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての保育士の役割と職業倫理（1）保育士の業務内容（2）職員間の役割分担や連携（3）保育士の役割と職業倫理 <p><居住型児童福祉施設等及び障がい児通所施設等における実習></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能 2 子どもの理解（1）子どもの観察とその記録（2）個々の状態に応じた対応 3 養護内容・生活環境（1）計画に基づく活動や援助（2）子どもの心身の状態に応じた対応（3）子どもの活動と生活環境（4）健康管理、安全対策の理解 4 計画と記録（1）支援計画の理解と活用（2）記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての保育士の役割と倫理（1）保育士の業務内容（2）職員間の役割分担や連携（3）保育士の役割と職業倫理 				
授業の留意点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。各実習先の留意事項を順守すること。				
学生に対する評価	実習先での評価 50 点、受講状況 20 点、提出物等 30 点。				
教科書（購入必須）	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ 全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』 中島常安・清水玲子編『事例で学ぶ保育実践』同文書院 蒲田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社 （※幼稚園教育実習指導と共通）				
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房 小野澤昇・田中利則編者『福祉施設実習ハンドブック』ミネルヴァ書房				

科目名	保育実習指導 I				
担当教員名	傳馬淳一郎・宮内俊一・長津詩織				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	実習
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	保育士（必修）
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習（保育所および保育所以外の児童福祉施設等）の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 児童福祉施設等における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通じて実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習を明確にする。 				
授業の概要	保育実習の目的および内容の理解、保育所・児童福祉施設等の理解、保育所保育指針の理解、必要な保育技術の習得をその内容とする。実習先の決定にいたるまでの手続とその指導も行う。また、事後指導では、実習の総括や評価をもとに、課題を明確にし、学内での学修との統合を図る。				
授業の計画	保育実習指導 I 保育所 第1回：保育実習の概要 第2回：保育実習 I 保育所の目的と概要 第3回：保育実習の意義・目的・内容の理解 第4回：保育所・認定こども園の理解と実習内容（実習の段階、子ども理解など） 第5回：プライバシーの保護と守秘義務 第6回：実習に向けての心構え（服装、挨拶、ネット利用など） 第7回：実習記録の意義・方法の理解（日誌の記入など） 第8回：保育計画、保育指導の理解（園の保育計画、カリキュラムなど） 第9回：実習施設（保育所・認定こども園）の理解 第10回：実習に関する諸手続き（個人票の作成・検便・健診などの確認） 第11回：実習課題の明確化・直前指導（欠席等の連絡方法、訪問指導などについて） 第12回：事後指導 実習内容の振り返り 第13回：事後指導 評価の確認（自己評価と園評価） 第14回：事後指導 課題の整理 第15回：実習総括	保育実習指導 I 施設 第1回：施設実習 I の目的と概要 第2回：児童福祉施設等（保育園以外）の予備知識 希望調査 第3回：児童福祉施設等（保育園以外）の理解（児童養護施設、乳児院） 第4回：児童福祉施設等（保育園以外）の理解（障害児者関係等） 第5回：児童福祉施設等（保育園以外）での実習内容と課題 第6回：児童福祉施設等（保育園以外）の記録と心構え 第7回：子どもの人権と子どもの最善の利益の考慮 第8回：プライバシーの保護と守秘義務 第9回：実習計画作成 実習配属先決定回答書の指示事項確認 第10回：事後指導 個人の振り返り 第11回：事後指導 グループでの振り返り 第12回：事後指導 礼状 日誌 レポート 自己評価 アンケート等 第13回：事後指導 評価の確認 第14回：事後指導 課題の整理 第15回：実習総括			
授業の留意点	実習指導は、実習と同等に位置付けているので、欠席・遅刻は十分に留意すること。				
学生に対する評価	受講態度 20 点、実習への姿勢・意欲 50 点、提出物等 30 点。				
教科書（購入必須）	河邊貴子・鈴木隆編著『保育・教育実習－フィールドで学ぼう－』同文書院※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ 全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』 中島常安・清水玲子編『事例で学ぶ保育実践』同文書院 蒲田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社 （※幼稚園教育実習指導と共通）				
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房 小野澤昇・田中利則編者『福祉施設実習ハンドブック』ミネルヴァ書房				

科 目 名	保育実習Ⅱ				
担 当 教 員 名	傳馬淳一郎・及川智博				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択必修
実務経験及び授業内容	保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、保育所において保育経験を持つ教員が指導を行い、保育士としての役割、保育の方法など、実習を通して学ぶ科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について実践を通して理解を深める。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援や地域への子育て支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己課題を明確にする。 				
授業の概要	保育所で所定の期間実習を行う。保育所の役割や機能、子どもの理解、保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める。保育実習Ⅰでの課題を踏まえながら、指導計画の作成、実践、評価を通して保育士としての実践力を養う。実習のまとめ、評価を通して、保育士としての自己課題を明確にする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育所の役割や機能の具体的展開 2 観察に基づく保育理解 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 生活の流れや展開の把握と保育士等の支援 3 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者及び地域の子育て家庭への支援 4 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6 自己課題の明確化 				
授業の留意点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。各実習先の留意事項を順守すること。				
学生に対する評価	実習先での評価 50 点、受講状況 20 点、提出物等 30 点。				
教科書 (購入必須)	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ 中島常安・清水玲子編『事例で学ぶ保育実践』同文書院※ (※保育実習指導Ⅰと共通)				
参考書 (購入任意)	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房				

科 目 名	保育実習指導Ⅱ				
担 当 教 員 名	傳馬淳一郎・及川智博				
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択必修
実務経験及び授業内容	保育実習Ⅰでの学びを踏まえ、保育所での保育経験を持つ教員が指導を行い、実習に伴う事前指導、訪問指導、事後指導を通して、保育士としての学びを深めるよう指導する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 				
授業の概要	保育実習の目的・目標および内容の理解、必要な保育技術の習得等、総合的に学ぶ。保育実習Ⅰでの課題を踏まえながら、子ども理解、子育て支援など、保育士の専門性と職業倫理について理解し保育実践力を養う。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習Ⅱの目的と概要 2 保育所・認定こども園での実習内容（実習の段階、子ども理解、保護者支援など） 3 子どもの最善の利益と保育 4 地域社会との連携・子育て支援の事例検討 5 実習に向けての心構え（プライバシーの保護、守秘義務、服装、挨拶など） 6 実習記録の意義・方法（日誌の記入など） 7 保育計画、保育指導の理解 その1（園の保育計画、カリキュラムなど） 8 保育計画、保育指導の理解 その2（指導案の作成） 9 保育計画、保育指導の理解 その3（模擬保育） 10 保育計画、保育指導の理解 その4（指導案の作成と模擬保育の振り返り） 11 実習課題の明確化（欠席等の連絡方法、訪問指導などについて） 12 事後指導 礼状、日誌、レポート、自己評価（事務確認を含む実習内容の振り返りなど） 13 事後指導 評価の確認（自己評価と園評価との検討から今後の実習課題の検討） 14 事後指導 課題の整理 15 実習総括 				
授業の留意点	実習指導は、実習と同等に位置付けているので、欠席・遅刻は十分に留意すること。				
学生に対する評価	受講態度 20点、実習への姿勢・意欲 50点、提出物等 30点。				
教科書（購入必須）	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ 中島常安・清水玲子編『事例で学ぶ保育実践』同文書院※ （※保育実習指導Ⅰと共通）				
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房				

科 目 名	保育実習Ⅲ				
担 当 教 員 名	宮内俊一・長津詩織				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保育士：選択必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	学校現場で社会福祉士（SSW）として従事した教員ならびに児童相談所及び児童養護施設等で臨床経験を持つ教員が、児童福祉施設等の役割や機能を理解し、実践的な学びについて指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2. 子どもの施設利用に至る経過について、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、子ども支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 保育士としての自己の課題を明確化する。 				
授 業 の 概 要	児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について実践を通して学び、保育士としての専門性、自己の課題を明確化する。また、子どもの日常生活やケースファイル等を通して施設入所に至る背景や生育史及び現状を理解し、子ども支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育実習Ⅰ（施設実習）を踏まえてさらに深める。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 2 施設における支援の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 (3) 個別支援計画の作成と実践 (4) 子どもの家族への支援と対応 (5) 多様な専門職との連携 (6) 地域社会との連携 3 保育士の多様な業務と職業倫理 4 保育士としての自己課題の明確化 				
授 業 の 留 意 点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。各施設の留意事項を順守すること。				
学 生 に 対 す る 評 価	実習先での評価 50 点、受講状況 20 点、提出物等 30 点。				
教 科 書 (購 入 必 須)	河邊貴子・鈴木隆編著『保育・教育実習－フィールドで学ぼう－』同文書院 小林育子他編著『幼稚園・保育所・施設 実習ワーク』萌文書林 相馬和子・中田カヨ子編著『実習日誌の書き方』萌文書林 蒲田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社 全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	保育実習指導Ⅲ				
担 当 教 員 名	宮内俊一・長津詩織				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択必修
実務経験及び授業内容	学校現場で社会福祉士（SSW）として従事した教員ならびに児童相談所及び児童養護施設等で臨床経験を持つ教員が、子どもの人権や守秘義務、実習の計画、実践、観察などの方法を具体的に理解するための科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 				
授業の概要	児童福祉施設等(保育所以外)の基本的な理解、実習の目的・目標および内容の理解、必要な保育技術の習得等、総合的に学ぶ。実際に居住型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解、施設機能と保育士の専門性と職業倫理について理解し保育実践力を養う。実習の事後指導には、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 施設実習Ⅲのあり方 2 児童福祉施設（保育園以外）の予備知識 希望調査 3 児童福祉施設（保育園以外）の概要（児童養護施設、乳児院）について事例等を通して学ぶ 4 児童福祉施設（保育園以外）の概要（障害児者関係等）について事例等で学ぶ 5 児童福祉施設（保育園以外）での実習内容 6 児童福祉施設（保育園以外）の記録と心構え 7 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 8 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 9 子どもの状態に応じた適切ななかかわり 10 保育士の専門性と職業倫理 11 実習前最終確認 12 事後指導 礼状 日誌 レポート 自己評価 アンケート等の確認 13 事後指導 評価の確認 14 事後指導 課題の明確化 15 実習総括 				
授業の留意点	実習指導は、実習と同等に位置付けているので、欠席・遅刻は十分に留意すること。 対面、場合によっては遠隔。				
学生に対する評価	受講態度 20 点、実習への姿勢・意欲 50 点、提出物等 30 点。				
教科書（購入必須）	河邊貴子・鈴木隆編著『保育・教育実習－フィールドで学ぼう－』同文書院 小林育子他編著『幼稚園・保育所・施設 実習ワーク』萌文書林 相馬和子・中田カヨ子編著『実習日誌の書き方』萌文書林 全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』 蒲田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社				
参考書（購入任意）					

科 目 名	卒業研究				
担 当 教 員 名	社会保育学科教員				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	4 単 位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科学的、論理的な思考及び表現を用いて研究課題を明確にする。 ・ 四年間の学びを踏まえて設定した研究テーマに基づき、卒業論文を作成する。 				
授 業 の 概 要	科学的・論理的な思考及び表現を用いて研究課題を明らかにし、四年間の学習・演習・実習を踏まえて設定した研究テーマに基づき、研究計画を立て、卒業研究を行う。担当教員の指導のもと、研究計画書の作成から論文作成、発表までの過程について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業研究に関するオリエンテーション ・ 卒業研究課題の決定 ・ 研究計画の作成 ・ 調査、研究の実施 ・ データの整理および分析 ・ 卒業論文の本文作成 ・ 卒業論文の提出および発表 				
授 業 の 留 意 点	卒業研究に関わるガイダンス及び研究室紹介は、3年次に行うので、掲示等による指示に従うこと。				
学 生 に 対 す る 評 価	取り組み状況、卒業論文及び発表の内容により総合的に評価する。				
教 科 書 (購入必須)	担当教員の指示による。				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	教職・保育実践演習				
担 当 教 員 名	石本啓一郎・糸田尚史・及川智博・高島裕美・棚橋裕子・傳馬淳一郎・堀川真・三国和子・三井登				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	1年次からの学修内容を省察することで、教育者として必要な資質能力を確認すると同時に、生涯学習として取り組んでいく自分なりの課題を発見することを目標とする。				
授 業 の 概 要	フィールドワークや現場の実践者と語り合う会、学生主体による「シンポジウム」の開催といった多彩な演習に挑戦することで、これまでの学修内容を振り返り、自らが卒業以降も取り組んでいく・検討していくことが求められる生涯学習としての課題を発見していく。 保育者として求められる4つの事項（①教育者としての使命感や責任感 / ②社会性や対人関係能力 / ③子ども理解やクラス経営、また職員・地域・家庭との連携 / ④教科・保育内容等の指導力）について、全15回を通じて総合的に扱う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨンー4年間の学修を捉えなおす講義としてー 2 「社会保育」を考える（1）ー領域横断講義 社会編ー 3 「社会保育」を考える（2）ー領域横断講義 臨床編ー 4 幼児理解のあり方を再考する 5 家庭・地域との連携を再考する 6 児童養護に携わる職員と語りあう 7 保育・幼児教育に携わる職員と語りあう 8 保育と地域とのつながりを考える（1）ーフィールドワーク事前準備ー 9 保育と地域とのつながりを考える（2）ーフィールドワークー 10 保育と地域とのつながりを考える（3）ーフィールドワーク総括ー 11 4年間の学びを振りかえる（1）ーシンポジウム企画ー 12 4年間の学びを振りかえる（2）ーシンポジウム事前準備ー 13 4年間の学びを振りかえる（3）ー4年生最終シンポジウム 1日目ー 14 4年間の学びを振りかえる（4）ー4年生最終シンポジウム 2日目ー 15 教職・保育実践演習まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッションやフィールドワークなどを伴うので、欠席・遅刻は十分に留意すること。 ・これまでの4年間の学修内容について自ら振り返ろうとする受講態度が求められる。 				
学 生 対 する 評 価	授業内の提出課題（90点）、授業への受講態度（10点）により総合的に評価します。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	指定しない。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	各内容に応じて、その都度指示・提示する。				